

枚方ふるさといきもの調査 報告書

平成 31 年(2019 年)3 月

枚 方 市

－ 目 次 －

1	概要	1
1.1	目的	1
1.2	調査地域	2
1.3	調査対象	2
2	調査内容	3
2.1	専門家調査	3
2.2	市民調査	14
3	調査結果	17
3.1	現存相観植生図の作成	17
3.2	現地調査	22
4	枚方市の自然環境の現状と評価	46
4.1	調査結果の分析・評価	46
4.2	保全施策について	50

1 概要

1.1 目的

枚方市では、昭和63年から平成元年にかけて実施した第1回自然環境調査以降、自然環境保全法第4条に準じ、概ね5年毎に全域調査と補完調査を交互に実施しており、今回、その6回目にあたる調査を実施した。本調査では、過去5回にわたって実施してきた調査を踏まえ、山田池公園と船橋川、穂谷川及び天野川を調査地域とし、調査結果を今後の環境施策全般の基礎資料とするとともに、環境教育・環境学習にも活用できる資料を作成した。また、市民参加型の調査手法を取り入れることにより、市民が自然環境の大切さを実感することで、環境保全に対する理解と関心を高めることを目的とした。

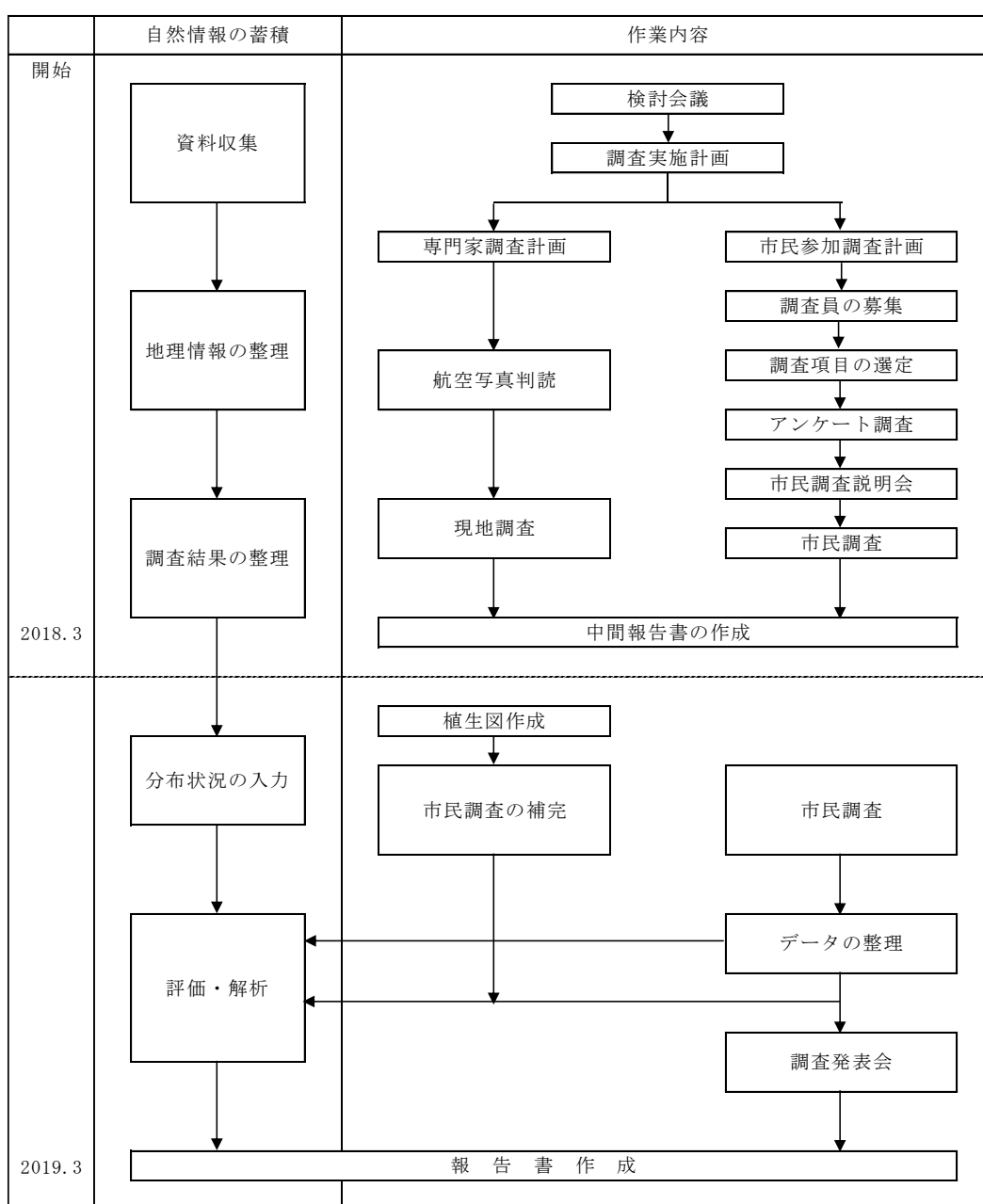


図 1-1 調査の進め方

1.2 調査地域

調査地域は、山田池公園、船橋川、穂谷川及び天野川とした。

各河川については、図1-2に示すスポット地点において調査を実施した。

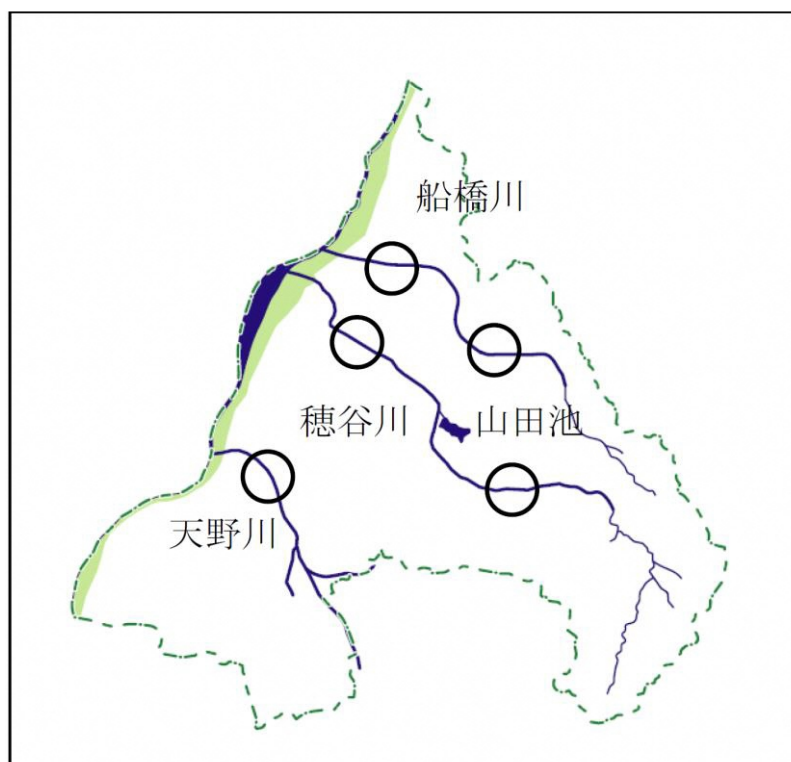


図 1-2 調査地域概略図

1.3 調査対象

現地調査は、以下の項目を対象に実施した。

- ・植物：植物相、孤立林
- ・動物：哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫、魚類・水生生物

2 調査内容

2.1 専門家調査

2.1.1 既存情報調査

調査対象としている地域において、過去5回の枚方市自然環境調査で確認された植物及び動物の調査結果と今回の調査結果を比較し、その変遷を表にまとめ、分析を行った。また、国や大阪府等行政の資料、市民団体等による自然環境調査資料と現地調査の結果をあわせて報告することとした。（別冊）

2.1.2 現存相観植生図の作成

第5回枚方市自然環境調査で作成された現存相観植生図を基本として、最新の航空写真の判読及び現地調査により、それ以降の植生や土地利用等の変化を把握して新たに縮尺1/15,000の植生図を作成した。

2.1.3 緑被状況の把握

枚方市内の緑被状況を把握するため、最新の航空写真の判読及び現地調査を行い、用途地域別に、樹林地、草地、園地、農耕地、裸地、水面、屋上緑化等の面積割合を算出した。

2.1.4 専門家による現地調査

(1) 調査項目及び調査内容

専門家（学識経験者、学芸員、技術士等）により原則として、枚方市第5回自然環境調査を参考に、調査地域において植物（植物相、孤立林）、動物（哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫、魚類・水生生物）の種数及びその生育・生息環境の把握するための現地調査を実施した。表2-1に調査時期、表2-2に調査内容を示す。

表 2-1 調査時期

調査項目		調査時期			
		夏季	秋季	冬季	春季
植物	植物相	○	○	○	○
	孤立林	○	○	○	○
動物	哺乳類	○	○		○
	鳥類	○	○	○	○
	昆虫類（陸生・水生）	○	○		
	両生類・爬虫類	○			○
	魚類（魚類・水生生物）	○	○	○	○

表 2-2 調査内容

分類	調査項目	調査内容	備考
植物	植物相	調査地域及び緑被状況の把握に必要な地域を踏査し、確認された種名及び環境要素を記録・集計	・確認種は、「分類群」、「科名」、「種名」、「学名」、「環境省RDB」、「RDB 近畿」、「大阪府RDB」の順に分類し、確認種全体のリストの他、調査地点別・環境要素・季節別に集計したリストを作成 ・補足情報として生育状況（自生・植栽・帰化・逸出） ・現地で種別できない場合などは、必要に応じて持ち帰り同定
	孤立林	前回調査で対象となった50箇所の孤立林を対象に、森林の概況を把握するため、対象森林の階層区分を行い、各階層ごとに優占種と階層全体の植被率を記録した。また、タケの侵入の有無、シュロの侵入の有無、クズの繁茂の有無についても記録した。その他、森林の持続上の課題がみられた場合にも記録した。孤立林の現況の植生評価を把握するため、代表的な孤立林を選定し、植物相調査を実施	
動物	哺乳類	調査地域を踏査し、目撃法、フィールドサイン法（食痕、糞、足跡など）により生息種を確認	・確認種は、「目」、「科」、「種名」、「学名」、「環境省RDB」、「大阪府RDB」の順に分類し、確認種全体のリストの他、調査地点別・環境要素・季節別に集計したリストを作成
	鳥類	調査地域において、ラインセンサス調査を行う。調査は、調査線を時速1.5kmの速さで歩き、定線の左右それぞれ25m以内の区域の種名及び個体数を記録し、種優占度による集計を行う。	確認種は、「目」、「科」、「種名」、「学名」、「環境省RDB」、「大阪府RDB」の順に分類し、確認種全体のリストの他、調査地点、枚方市における渡り区分（夏鳥・冬鳥など）及び主に見られる環境（水辺・森林など）の別に集計したリストを作成
	昆虫類	調査地域を踏査し、見つけ取り法、ふるい法、スウィーピング法、ビーティングトラップ法、ビットフォールトラップ法、鳴き声等により生息種を確認	・確認種は、「目」、「科」、「種名」、「学名」、「環境省RDB」、「大阪府RDB」の順に分類し、確認種全体のリストの他、調査地点別・環境要素・季節別に集計したリストを作成 ・現地で種別できない場合などは、必要に応じて持ち帰り同定
	両生類 爬虫類	調査地域を踏査し、目視、捕獲、脱皮殻、鳴き声等により生息種を確認する。目撃が困難なカメ類等については必要に応じてトラップ法により生息種を確認	・確認種は、「目」、「科」、「種名」、「学名」、「環境省RDB」、「大阪府RDB」の順に分類し、確認種全体のリストの他、調査地点別・環境要素・季節別に集計したリストを作成 ・現地で種別できない場合などは、必要に応じて持ち帰り同定
	魚類	調査地域の水域において確認された魚類の種名を記録・集計し、全種についてスケールをあて写真撮影を行った後に放流する	・調査実施時の参考として、天候、水温、川幅、水深、水生植物等の状況、透視度（濁度）、pH、DO、水生植物等の状況、その他（植生や瀬や淵、護岸の状況、川底の状況など）についても記録
	水生生物	調査地域の水域において確認された水生生物の種名及び個体数を記録・集計した後に放流する	・確認種は、「目」、「科」、「種名」、「学名」、「環境省RDB」、「大阪府RDB」の順に分類し、確認種全体のリストの他、調査地点別・環境要素・季節別に集計したリストを作成 ・現地で種別できない場合などは、必要に応じて持ち帰り同定

※魚類調査使用漁具の規格

漁具	規格
投網	目合 15mm、及び 25mm
タモ網	目合 1mm、口径 30cm
サデ網	目合 2mm、口径 100cm
セルびん	入り口径 5cm

(2) 調査地点

調査地点は、山田池公園（1地点）、船橋川（2地点）、穂谷川（2地点）、天野川（1地点）の計6地点とした。

山田池公園以外の河川では、河川沿いに概ね1kmの調査区間を設定し、基本調査ルートとした。山田池公園については、公園内の周回ルートを基本調査ルートとした。

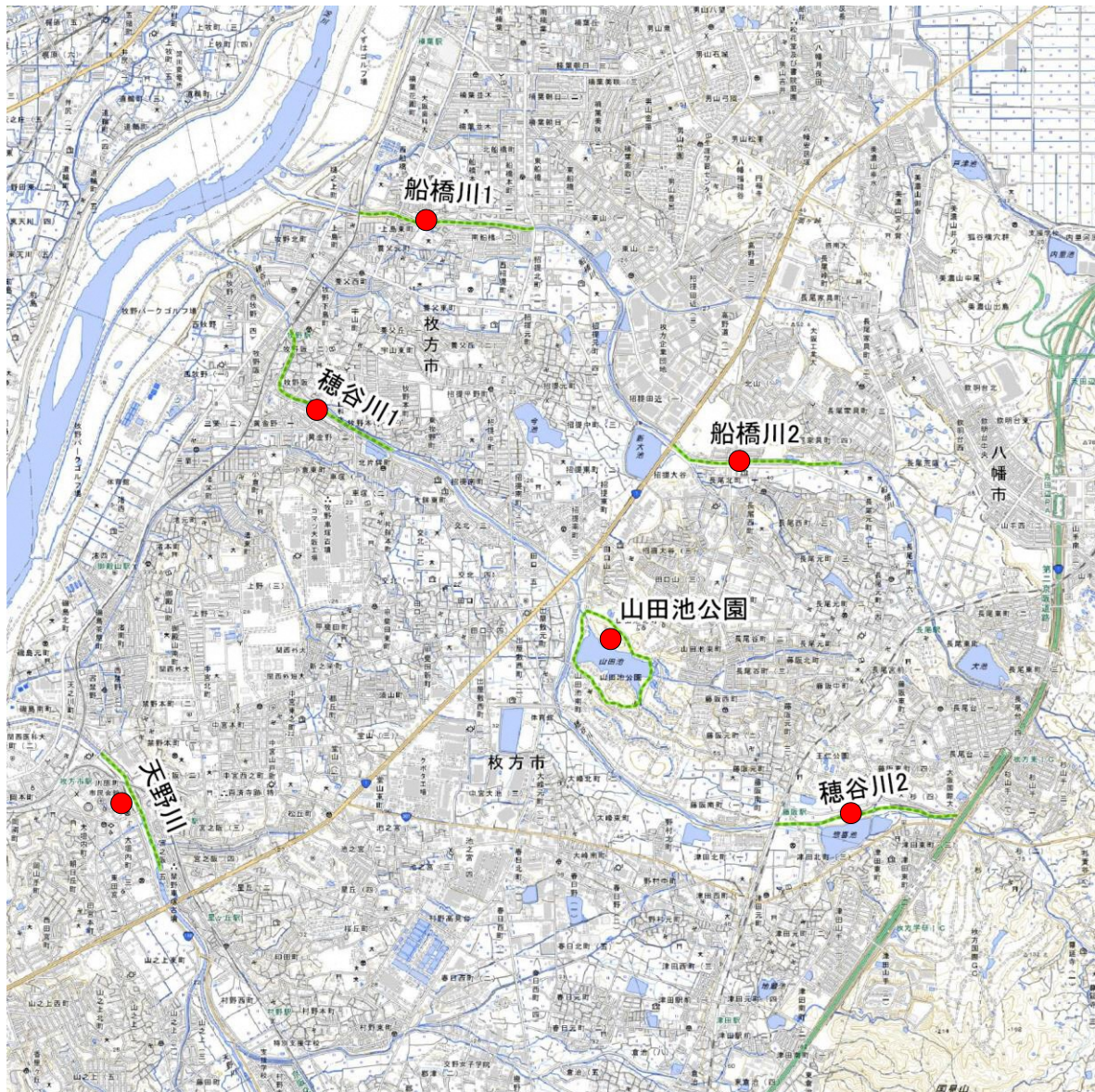


図 2-1 調査地点位置図

以下に各調査地点の概要を示す。

【天野川】

枚方市駅や宮之阪駅に近く、周囲は高度に市街化されている。

調査区間は平野部の市街地を流れる約 1km の区間で、堤防は兩岸に低水護岸が設置され、一部、階段状の親水護岸が設けられている。河道には低水敷や砂洲が発達し、低水敷の一部には、遊歩道が設置されている。



【山田池公園】

山田池公園は枚方市の平野部市街地にある広大な緑地公園で、池部及び樹林地と芝生広場と含めた草地からなる区域である。森林部の多い山田池周辺の周回ルートを基本踏査ルートとし、山田池公園全体を調査対象範囲とした。



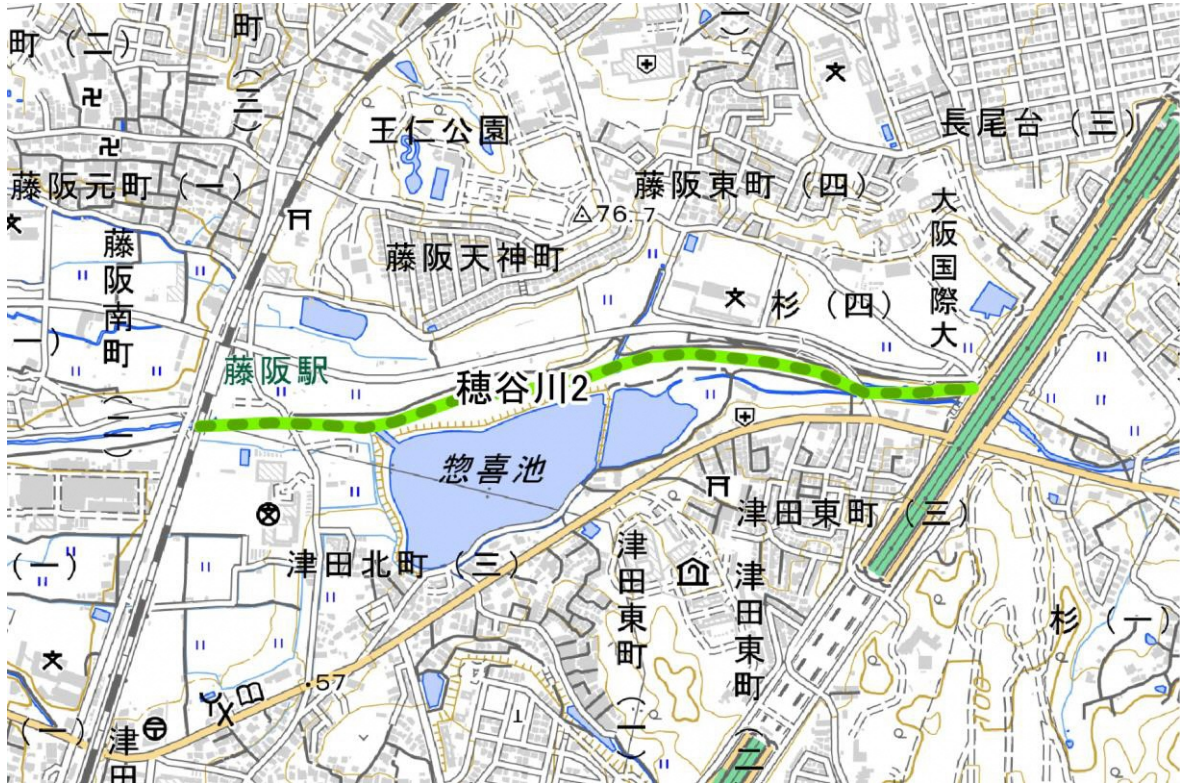
【穂谷川1】

調査区間は平野部の市街地を流れる約 1km の区間で、堤防は兩岸に低水護岸が設置され、一部は堤防壁面全体がコンクリートや石積の人工護岸となっている。河床材料は砂質で、所々堆砂して河道内に低水敷を形成している。



【穂谷川2】

調査区間は平野部の市街地を流れる約 1km の区間で、堤防は兩岸に低水護岸が設置され、一部は堤防壁面全体がコンクリートや石積の人工護岸となっている。河床材料は砂質で、所々堆砂して河道内に低水敷を形成している。また、周囲には耕作地やため池が分布している。



【船橋川1】

調査区間は平野部の市街地を流れる約 1km の区間で、堤防は兩岸に低水護岸が設置されている。また河床には部分的に蛇かごが設置されている。



【船橋川2】

調査区間は、平野部の市街地を流れる約 1km の区間で、堤防は両岸に低水護岸が設置されている。周囲に耕作地が分布し、河道内や堤防周辺にも、植生が発達している。



(3) 調査日程

専門家による現地調査の調査日程は以下のとおりである。

表2-3 調査日程一覧 (1)

調査項目	調査期	調査日	調査地点
植物	夏	平成29年7月18日	船橋川1、船橋川2
		平成29年7月19日	穂谷川1、天野川
		平成29年7月20日	穂谷川2、山田池公園
	秋	平成29年11月1日	山田池公園、穂谷川2
		平成29年11月2日	船橋川1、船橋川2
		平成29年11月7日	穂谷川1、天野川
	冬	平成30年4月9日	山田池公園、穂谷川2
	春	平成30年5月9日	船橋川1、天野川
		平成30年5月10日	穂谷川1、船橋川2、穂谷川2
		平成30年6月4日	山田池公園
孤立林	夏	平成29年8月18日	孤立林調査
		平成29年8月19日	孤立林調査
		平成29年8月31日	孤立林調査
	秋	平成29年9月11日	孤立林調査
		平成29年11月9日	意賀美神社、菅原神社
		平成29年11月10日	氷室台
		平成29年11月13日	香里園桜木町
	春	平成30年5月1日	香里園桜木町、氷室台
		平成30年5月2日	意賀美神社、菅原神社
哺乳類	夏	平成29年7月19日	穂谷川1、穂谷川2、山田池公園
		平成29年7月20日	船橋川1、船橋川2、天野川
		平成29年8月4日	穂谷川1、船橋川1
		平成29年8月31日	山田池公園、穂谷川2
	秋	平成29年9月11日	穂谷川2
		平成29年9月13日	穂谷川1、天野川、船橋川1
		平成29年10月14日	山田池公園
	春	平成30年4月10日	山田池公園
		平成30年4月20日	船橋川1、船橋川2
		平成30年4月23日	天野川
		平成30年4月25日	穂谷川1、穂谷川2
鳥類	夏	平成29年7月20日	穂谷川1、天野川、船橋川1
		平成29年7月26日	船橋川1、船橋川2
		平成29年7月27日	穂谷川2、山田池公園
	秋	平成29年9月11日	山田池公園、穂谷川2
		平成29年9月12日	穂谷川1
		平成29年9月13日	天野川
		平成29年9月26日	穂谷川1、天野川
		平成29年10月4日	船橋川1、船橋川2
		平成29年10月5日	穂谷川2、山田池公園
		平成29年12月11日	山田池公園、穂谷川2
	冬	平成29年12月14日	天野川、穂谷川1
		平成29年12月19日	船橋川1、船橋川2
		平成29年12月19日	船橋川1、船橋川2
	春	平成30年5月2日	天野川、穂谷川1
		平成30年5月10日	山田池、穂谷川2
		平成30年5月15日	船橋川1、船橋川2

表2-3 調査日程一覧 (2)

調査項目	調査期	調査日	調査地点
昆虫類	夏	平成29年8月21日	船橋川1、船橋川2
		平成29年8月22日	穂谷川2
		平成29年8月29日	穂谷川1、天野川
		平成29年8月31日	山田池公園
	秋	平成29年9月15日	山田池公園
		平成29年9月30日	船橋川1、船橋川2
		平成29年10月1日	天野川、穂谷川1、穂谷川2
	初夏 (ホタル調査)	平成30年6月14日	山田池公園
		平成30年6月22日	船橋川1、船橋川2、穂谷川1、穂谷川2、天野川
両生類・爬虫類	夏	平成29年7月19日	穂谷川1、穂谷川2、山田池公園
		平成29年7月20日	船橋川1、船橋川2、天野川
		平成29年8月4日	穂谷川1、船橋川1
		平成29年8月31日	山田池公園、穂谷川2
	秋	平成29年9月11日	穂谷川2
		平成29年9月13日	穂谷川1、天野川、船橋川1
		平成29年9月30日	船橋川2
		平成29年10月14日	山田池公園
	春	平成30年4月10日	山田池公園
		平成30年4月20日	船橋川1、船橋川2
		平成30年4月23日	天野川
		平成30年4月25日	穂谷川1、穂谷川2
魚類	夏	平成29年8月21日	船橋川1、船橋川2、山田池公園
		平成29年8月29日	天野川、穂谷川1
		平成29年8月31日	穂谷川2
	秋	平成29年10月10日	穂谷川1、穂谷川2、船橋川2
		平成29年10月11日	天野川、船橋川1、山田池公園
	冬	平成30年1月10日	天野川、穂谷川1
		平成30年1月11日	船橋川1、船橋川2
		平成30年1月12日	穂谷川2、山田池公園
	春	平成30年4月9日	穂谷川2、山田池公園
		平成30年4月19日	穂谷川1、天野川
		平成30年4月20日	船橋川1、船橋川2

2.2 市民調査

2.2.1 概要

市民参加による調査は、枚方市広報やFM放送などを通じて募集を行い、以下の3つの調査を行った。

- ① 応募のあった市民により構成する市民調査隊による調査
- ② 一般参加者を募集して行う公開調査会
- ③ 不特定の市民によるアンケート調査

また、これらの市民調査や公開調査は「枚方いきもの調査会」の協力を得ながら実施した。

2.2.2 市民調査隊

市民調査隊は、講師1～2名とアシスタント1～5名で運営し、以下の内容で実施した。

表 2-4 市民調査隊による調査の概要

調査名	調査対象	調査地点	調査方法	H29 年度		H30 年度	
				秋季	冬季	春季	夏季
天野川観察会	魚類 底生動物	天野川	調査地点を講師とともに歩き、タモ網などを使用しながら、確認した種と場所を記録	1回	—	—	—
	哺乳類	淀川・天野川	調査ルートを講師とともに歩き、確認した種と場所を記録	—	1回	—	—
山田池観察会	鳥類	山田池公園	調査ルートを講師とともに歩き、確認した種と場所を記録	—	—	1回	—
	哺乳類 両生類 爬虫類	山田池公園	調査ルートを講師とともに歩き、確認した種と場所を記録	1回	—	1回	—
	魚類 底生動物	山田池公園	池の水を抜いて捕獲した（TV撮影）	1回	1回	—	—
穂谷川観察会	植物	穂谷川	調査ルートを講師とともに歩き、確認した種と場所を記録	1回	—	1回	—
	陸上昆虫類	穂谷川	調査ルートを講師とともに歩き、確認した種と場所を記録	1回	—	—	—
猛禽類観察会	鳥類 (猛禽類)	淀川・天野川	調査地点を講師とともに移動し、確認した種と場所を記録	—	2回	—	—

2.2.3 公開調査会

公開調査会は、講師1～2名とアシスタント1～5名で運営し、以下の内容で実施した。

表 2-5 公開調査会の概要

調査名	調査対象	調査地点	調査方法	H29 年度		H30 年度	
				秋季	冬季	春季	夏季
天野川観察会	魚類 底生動物	天野川	調査地点を講師とともに歩き、タモ網などを使用しながら、確認した種と場所を記録	1回	—	—	1回
山田池観察会	鳥類	山田池公園	調査ルートを講師とともに歩き、確認した種と場所を記録	—	1回	—	—
	陸上昆虫類	山田池公園	調査ルートを講師とともに歩き、確認した種と場所を記録	—	—	—	1回
穂谷川観察会	植物	穂谷川	調査ルートを講師とともに歩き、確認した種と場所を記録	—	—	—	1回
猛禽類観察会	鳥類 (猛禽類)	淀川・天野川	調査地点を講師とともに移動し、確認した種と場所を記録	—	1回	—	—

2.2.4 調査日程

現地調査の調査日程及び実施状況は以下のとおりである。

表2-6 市民調査会日程及び実施状況

回	調査項目	調査地域	調査日	参加者 (名)	講師 (名)	補助 (名)	備考
1	植物	穂谷川	2017年10月29日(日)	—	—	—	雨天中止
2	植物	穂谷川	2017年11月4日(土)	7	1	2	
3	鳥類(猛禽類)	天野川ー淀川	2017年12月17日(日)	13	1	2	
4	鳥類(猛禽類)	天野川ー淀川	2018年1月28日(日)	11	1	1	
5	昆虫類	穂谷川	2017年10月9日(月)	6	1	2	
6	昆虫類	山田池公園	2017年10月15日(日)	—	—	—	雨天中止
7	昆虫類	山田池公園	2017年10月21日(土)	—	—	—	予備日：雨天中止
8	両生類・爬虫類・哺乳類	山田池公園	2017年10月15日(日)	—	—	—	雨天中止
9	両生類・爬虫類・哺乳類	山田池公園	2017年10月21日(土)	—	—	—	予備日：雨天中止
10	両生類・爬虫類・哺乳類	山田池公園	2017年11月4日(土)	9	1	2	新たに調査日を設定
11	哺乳類	天野川ー淀川	2018年1月28日(日)	1	1	1	
12	魚類・底生動物	天野川	2017年10月22日(日)	—	—	—	雨天中止
13	魚類・底生動物	天野川	2017年10月29日(日)	—	—	—	予備日：雨天中止
14	魚類・底生動物	天野川	2017年11月19日(日)	5	1	2	新たに調査日を設定
15	魚類・底生動物	山田池公園	2017年10月15日(日)	多数	1	1	TV撮影、立ち会い
16	魚類・底生動物	山田池公園	2018年1月20日(土)	多数	1	1	TV撮影、立ち会い
17	植物	穂谷川	2018年5月13日(日)	12	1	2	
18	昆虫類	穂谷川	2018年5月13日(日)	—	—	—	雨天中止
19	昆虫類	穂谷川	2018年5月19日(土)	—	—	—	予備日：雨天中止
20	鳥類	山田池公園	2018年5月20日(日)	5	1	2	
21	両生類・爬虫類・哺乳類	山田池公園	2018年5月27日(日)	7	1	2	
22	昆虫類	穂谷川	2018年9月8日(土)	—	—	—	雨天中止
23	魚類・底生動物	天野川	2018年9月9日(日)	—	—	—	雨天中止
24	魚類・底生動物	天野川	2018年9月16日(日)	—	—	—	予備日：雨天中止
25	昆虫類	穂谷川	2018年9月23日(日)	—	—	—	予備日：中止

表2-7 公開調査日程及び実施状況

回	調査項目	調査地域	調査日	参加者 (名)	講師 (名)	補助 (名)	備考
1	魚類・底生動物	天野川	2017年11月26日(日)	46	2	3	
2	鳥類	山田池公園	2018年1月14日(日)	18	1	3	調査対象「カモ類」の予定であったが、山田池の水位低下に伴い、対象を一般鳥類に変更して実施
3	鳥類(猛禽類)	天野川ー淀川	2018年2月11日(日)	22	1	3	
4	植物	穂谷川	2018年7月1日(日)	13	1	3	
5	昆虫類	山田池公園	2018年7月15日(日)	42	2	2	
6	魚類・底生動物	天野川	2018年8月26日(日)	36	1	3	

2.2.5 市民からの情報提供

市民から市内で生息している生物の情報を提供してもらい、動植物名と場所の情報を収集した。

3 調査結果

3.1 現存相観植生図の作成

3.1.1 植生図

植生図の作成にあたっては、最新の航空写真の判読により植生の相観区分を行い、植生の分布状況を確認・図示することにより作成し、航空写真での判読が難しい箇所等については現地での確認を行った。作成した植生図を図3-1に示すと共に、植生単位等の凡例の概要を表3-1に整理した。

表3-1 現存相観植生図の凡例概要

植生図凡例	概 要
コジイ林	人為干渉の少なかった社寺林などに残る、地域の自然植生。樹林高は15m以上と多角、大木が混じる。
アラカシ林	かつて農用林などの人為干渉を受けた二次林。コナラ林、アカマツ林が放置されて成立した樹林。
ヤナギ林	淀川や市内河川の河畔林。一部にヤナギ以外のエノキ、ムクノキ、センダン、ニワウルシ等の河畔に見られる広葉樹林を含む。
コナラ林	かつて農用林などの人為干渉を受けた二次林。放置されてアラカシ林の構成種やモウソウチクの侵入が見られる。
アカマツ林	かつて用材林として維持管理された樹林であるが、マツ枯れにより現在はゴルフ場の中や穂谷川沿いにわずかに残るのみである。
植林	国見山中腹に見られる林分は、戦後に植林されたニセアカシア林が山火事で焼失した後に植えられたスギやヒノキの植林。
竹林	タケノコ生産のモウソウチク林が多く、放置され、過密状態の林分もよく見られる。隣接する他の植生に侵入して拡大する傾向が見られる。
ニセアカシア林	造成法面などの緑化木として植栽され、成長は早いが倒伏しやすく単純林を形成しやすい。
高茎草本	淀川河川敷のヨシ、オギ、セイタカヨシなどの草本群落及び休耕地や空き地に生じた群落高1m～5m程度の草地
低茎草本	休耕地のシロツメグサ群落、畦や堤防法面・河川敷の草刈跡地に生じるチガヤ群落など、田園地帯に付随する群落高1m以下の雑草群落。
芝草地	公園緑地、ゴルフ場などの管理された芝生地。
園地型植栽	公園緑地、街路樹、住宅団地の植栽などの中高木の疎林。
水田	東部地域山間部の棚田や湿田、圃場整備された水田、平地の溜池灌漑水田、淀川沿いの河川灌漑水田など様々なタイプの水田が見られる。
畑地	野菜栽培地などの耕作地。枚方市の農業は畜産と米が中心で野菜は少なく、まとまった畑は見られない。
造成直後の裸地	開発などの影響を受けた人工裸地。
水域	河川、溜池。山間地の小規模な溜池、平地の大きな溜池など様々なタイプが見られる。

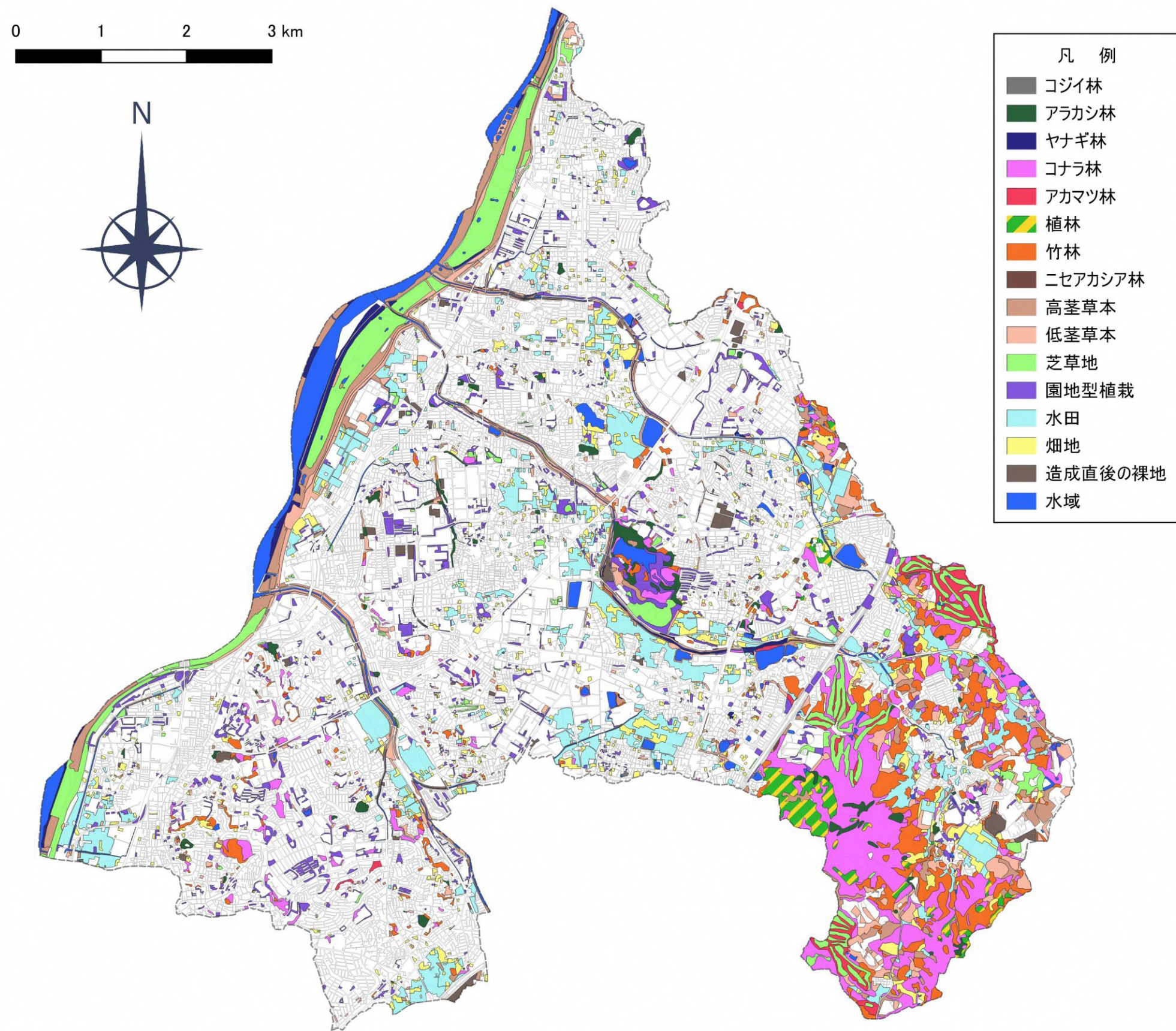


図 3-1 現存相関植生図

3.1.2 植生面積の変化

作成した植生図をもとに、各植生単位等の分布面積を集計・整理した。植生面積について、1990年の第1回から今回までの変化を表3-2および図3-2に示した。

表 3-2 植生面積の経年変化状況

(単位：ha)

緑地区分	1990年	2000年	2007年	2012年	2018年
雑木林等	570.80	495.20	461.65	480.85	461.66
竹林	167.03	221.90	224.82	233.18	225.54
植林	68.25	51.79	54.06	51.83	53.48
園地型植栽	68.30	63.45	114.49	150.85	217.98
農耕地	878.45	783.07	701.77	642.74	579.26
草地	221.55	545.91	510.11	589.19	632.06
合計	1974.38	2161.32	2066.90	2148.64	2169.98

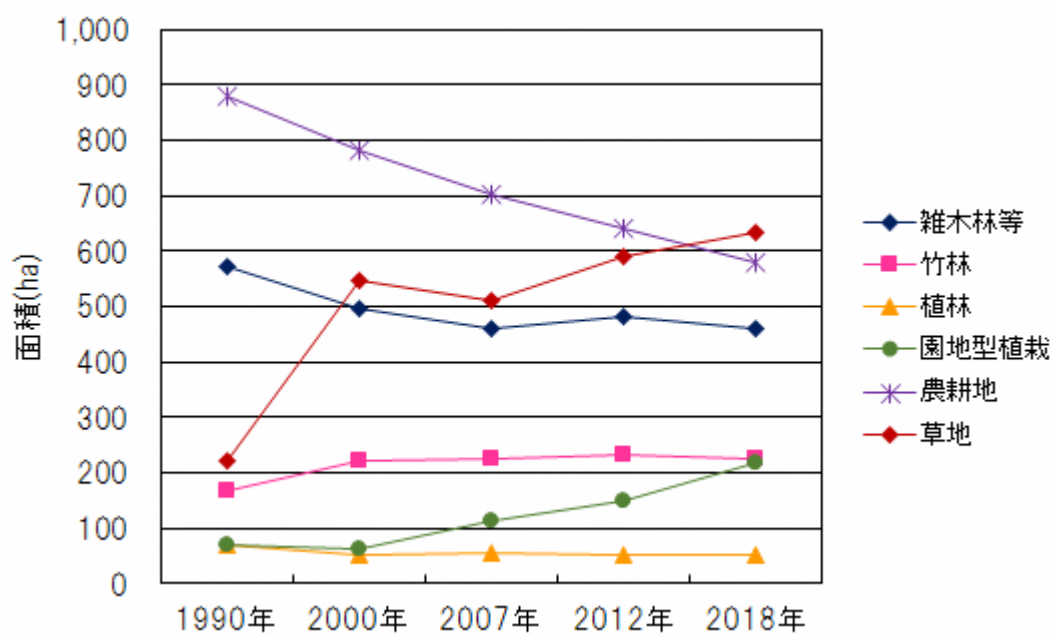


図 3-2 植生面積の経年変化

変化の状況は以下のとおりである。

- ・ 1990 年以降、減少傾向の緑地区分は農耕地であった。要因としては住宅地開発等による改変が主な理由と考えられる。
- ・ 雑木林等については、2007 年まで減少傾向であったが、その後はほぼ横ばいとなっている。要因としては、近年は森林伐開を伴う大規模な開発が減少したことが理由と考えられる。
- ・ 増加傾向の緑化区分は、草地及び園地型植栽であった。増加した要因としては、河川敷での増加(全体的な傾向としての変化というよりは一時的な工事や草刈による消失後の回復)によるもののほか、山間地の耕作地の放棄による増加、建築物解体後の造成地等での一時的な草地の出現等様々な要因の蓄積によると考えられる。園地型植栽については、前回調査時に造成された学校や公園等の公共緑地の樹木や私有地の緑化樹群の多くが航空写真上で樹林と認識できる状態にまで成長し、緑地面積に算入されたことも少なからずあると考えられる。

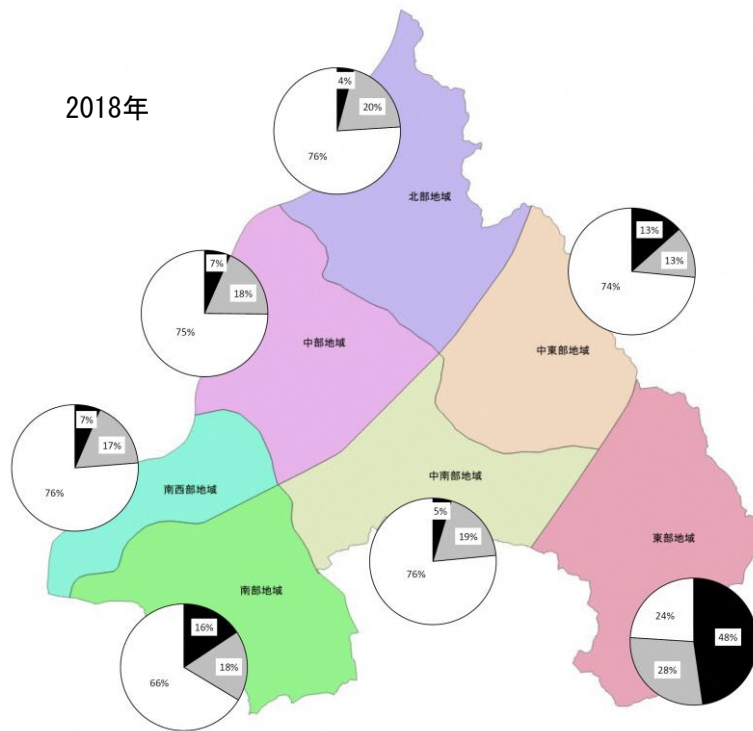
3.1.3 地域別の緑被状況

地域別の緑被状況として、枚方市都市計画マスタープランにおいて7つに区分された各地域(北部地域、中部地域、南西部地域、中東部地域、中南部地域、南部地域、東部地域)ごとの緑被率と植生タイプ別(草本タイプ、樹林タイプ)の内訳を図3-3に示した。

地域別の緑被の特徴は次のとおりである。

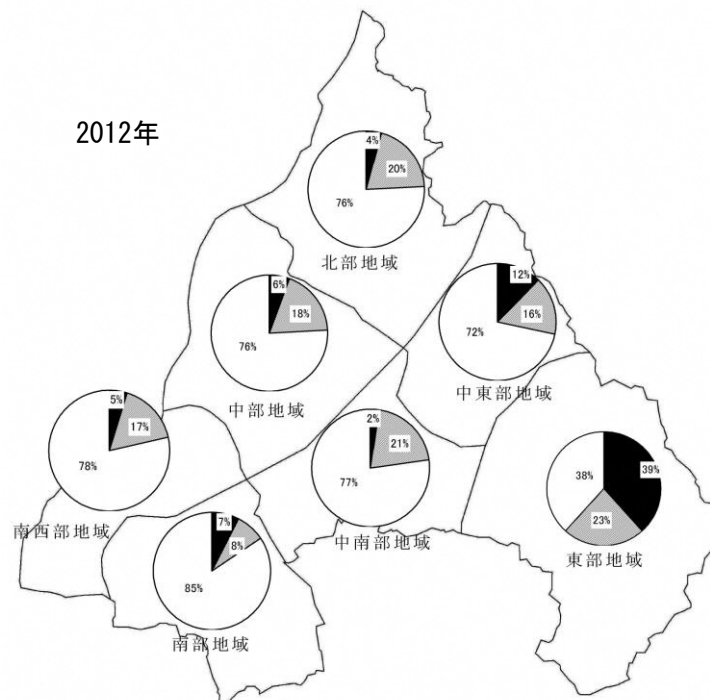
- ・ 東部地区の緑被地は70%を超えているが、他の地域は20～30%程度であった。
- ・ 樹林タイプが多い地域は、東部地区、中東部地域、南部地域であった。この地区は、大きな孤立林である山田池公園、長尾荒阪や香里園桜木町が位置しており、前回調査と傾向は変わらなかった。
- ・ 前回調査より緑被地が増加した地域は、東部地区及び南部地区であり、特に樹林タイプが大きく増加していた。
- ・ 草本タイプについては、南部地区が前回調査よりやや増加しているが、全体的には大きな変化はなかった。

2018年



凡 例	タイプ区分	植生凡例
	樹林タイプ	コジイ林, アラカシ林, ヤナギ林, コナラ林, アカマツ林, 植林, 竹林, ニセアカシア林, 園地型植栽
	草本タイプ	高茎草本, 低茎草本, 芝草地, 水田, 畑地
	非緑地	造成直後の裸地, 水域

2012年



凡 例	タイプ区分	植生凡例
	樹林タイプ	コジイ林, アラカシ林, ヤナギ林, コナラ林, アカマツ林, 植林, 竹林, ニセアカシア林, 園地型植栽
	草本タイプ	高茎草本, 低茎草本, 芝草地, 水田, 畑地
	非緑地	造成直後の裸地, 水域

図 3-3 地域別緑被状況図

3.2 現地調査

3.2.1 植物

(1) 確認種

調査の結果、全体で735種、市民調査で220種の植物種を確認した。調査地域別では、穂谷川2が413種、山田池公園が360種とこの2地域での確認が多く、次いで船橋川2の225種、穂谷川1の208種、船橋川1の185種、天野川175種であった。なお、孤立林調査では合計434種が確認された。

表 3-3 植物確認種数の内訳（全体）

分類群				全体		天野川		山田池公園		穂谷川1		穂谷川2		船橋川1		船橋川2		孤立林調査	
				科	種	科	種	科	種	科	種	科	種	科	種	科	種	科	種
シダ植物				16	49	1	1	9	24	5	5	10	26	1	1	3	3	15	39
種子植物	裸子植物			5	10	0	0	3	5	0	0	2	2	0	0	0	0	5	8
	被子植物	双子葉類	離弁花類	66	319	27	75	50	157	35	91	50	179	31	85	34	98	55	187
			合弁花類	25	180	10	39	19	81	12	57	21	101	12	48	13	57	21	105
		単子葉類		17	177	11	60	11	93	10	55	15	105	8	51	12	67	13	95
合 計				129	735	49	175	92	360	62	208	98	413	52	185	62	225	109	434

表 3-4 植物確認種数の内訳（市民調査）

分類群				全体	
				科	種
シダ植物				4	4
種子植物	裸子植物			1	1
	被子植物	双子葉類	離弁花類	37	101
		葉類	合弁花類	15	60
		単子葉類		8	54
合 計				65	220

調査地域別の植物相の概況を以下に示す。

【天野川】

植物は、堤防上部の土手と低水敷の草地および流水辺に生育していた。このうち低水敷の草地や流水辺には、オギ、ツルヨシ、クサヨシ、ヒメガマ、ミゾソバ、ヤナギタデ等が、また、堤防上部の土手には、チガヤ、セイタカヨシ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ等が群落を形成していた。また、天野川は、市街地を流れる小河川であることから、確認された植物相に占める帰化植物の割合は高かった。

重要種は、ユキヤナギ、カワヂシャ、ニラの3種が確認されているが、このうちユキヤナギ、ニラの2種は、栽培品の逸出と考えられる。カワヂシャは、春季に流水辺の1か所で、1個体が確認された。

特定外来種は、ナガエツルノゲイトウ、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギクの4種が確認された。このうちナガエツルノゲイトウは本区間にのみ出現し、春季にほぼ全域の流水辺で、計15のパッチが確認されている。パッチのサイズは、各1m×1～5mほどであった。



カワヂシャ

【山田池公園】

現地調査において確認された重要種は、ヤナギヌカボ、サデクサ、コイヌガラシ、トサミズキ、アズマツメクサ、ユキヤナギ、オオアブノメ、カワヂシャ、ミコシガヤ、マツカサススキの10種であった。このうちトサミズキは植栽樹、ユキヤナギは栽培品の逸出と考えられる。他の8種については、山田池最奥部のヨシ原およびその周辺の湿地で確認された湿地性植物であった。

特定外来種は、アレチウリ、オオカワヂシャの2種が確認された。アレチウリは、夏季に公園内の遊歩道脇の1箇所、オオカワヂシャは、早春季にヨシ原周辺の湿地で10個体が確認された。



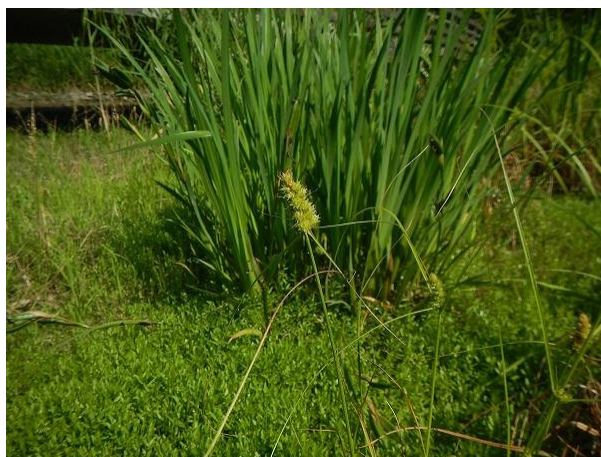
ヤナギヌカボ



サデクサ



オオアブノメ



ミコシガヤ

【穂谷川-1】

植物は、堤防上部の土手と低水敷および流水辺に生育していた。このうち低水敷および流水辺には、ヨシ、オギ、クサヨシ、ミゾソバ、ヤナギタデ等、堤防上部の土手には、チガヤ、ススキ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ等が群落を形成していた。穂谷川は、市街地を流れる小河川であることから、植物相に占める帰化植物の割合は高かった。

重要種は、ユキヤナギ、ニラ、シランの3種が確認されているが、いずれも栽培品の逸出と考えられる。

特定外来種は、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギクの3種が確認された。調査範囲内では特にアレチウリの個体数が多く、夏季にはほぼ全域の低水敷や堤防土手に、計数100個体が生育していた。

【穂谷川-2】

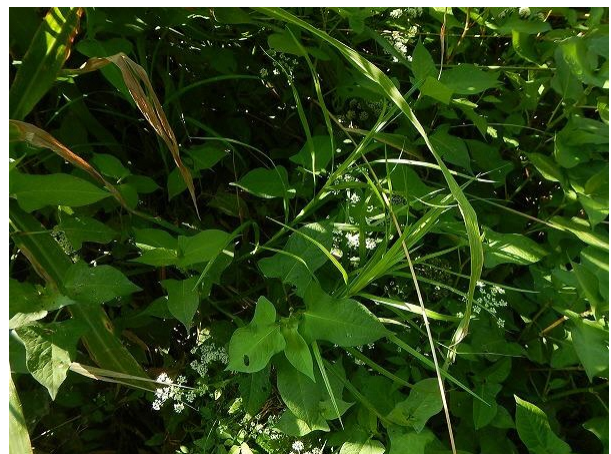
穂谷川-2は、河道内、河岸水際および両岸の樹林や草地の植物を調査対象としているため、出現種には森林性の植物が多く含まれていた。現地調査において確認された森林性の植物は、アイアスカイノデ、ナガバヤブマオ、ヤマネコノメソウ、ウバユリ、キチジョウソウ、コクラン等であった。このほか、ヤドリギ、ムラサキケマン、ソクズ等が確認された。

重要種は、ニッケイ、トサミズキ、コムラサキ、ツツイトモ、ニラ、ヤガミスゲの7種が確認された。このうちトサミズキ、コムラサキの2種は植栽樹、ニッケイ、ニラの2種は栽培品の逸出と考えられる。ヤガミスゲは夏季に河道内の砂洲で2株、ツツイトモも夏季、調査範囲下流端の河道内の2か所で確認されたが、その後の秋・春季調査では、両種とも確認されなかったことから、増水により流失したと考えられる。

特定外来種は、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギクの3種が確認された。特にアレチウリは、秋季に調査範囲の上流端近くの右岸土手法面に、10m×30mの大群落を形成していた



ツツイトモ



ヤガミスゲ

【船橋川-1】

植物は、堤防上部の土手と河床の土だまりや蛇かごに主に生育していた。このうち河床の土だまりや蛇かごには、ヨシ、オギ、クサヨシ、ミゾソバ、ヤナギタデ等、堤防上部の土手には、チガヤ、ススキ、メヒシバ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ等が群落を形成していた。船橋川は、市街地を流れる小河川であることから、植物相に占める帰化植物の割合は高かった。

重要種は、ユキヤナギ、ニラの2種が確認されたが、いずれも栽培品の逸出と考えられる。

特定外来種は、アレチウリ、オオカワヂシャの2種が確認された。特にオオカワヂシャの個体数が多く、春季にはほぼ全域の流水辺で約150個体が確認された。

【船橋川-2】

植物は、堤防上部の土手と河床の土だまりに主に生育している。このうち河床の土だまりには、ヨシ、オギ、クサヨシ、ミゾソバ、ヤナギタデ等が、また、堤防上部の土手には、チガヤ、ススキ、メヒシバ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ等が群落を形成している。

重要種は、ユキヤナギ、コムラサキ、カワヂシャ、ニラの4種が確認されたが、このうちユキヤナギ、コムラサキ、ニラの3種は、栽培品の逸出と考えられる。カワヂシャは、春季に流水辺の9か所で、計16個体が確認された。

特定外来種は、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギクの3種が確認された。このうちオオキンケイギクは、右岸堤防上部の土手部分に、約600mにわたって計1万個体以上が確認された。また、オオカワヂシャの個体数も多く、春季にほぼ全域の流水辺で約400個体が確認され、在来種のカワヂシャとの雑種であるホナガカワヂシャも確認された。



コムラサキ



カワヂシャ

(2) 希少な植物

今回の調査で希少な植物種として表3-5に示す14科21種を確認した。

表 3-5 希少な植物一覧

科名	種名	調査地域							レッドデータブック文献		
		天野川	山田池 公園	穂谷川 1	穂谷川 2	船橋川 1	船橋川 2	孤立林 調査	環境省RL	近畿RDB	大阪府RL
タデ科	ヤナギスカボ		○						絶滅危惧II類(VU)	絶滅危惧種C	絶滅危惧I類(CR+EN)
	サデクサ		○							絶滅危惧種C	準絶滅危惧(NT)
クスノキ科	ニッケイ				●			○	準絶滅危惧(NT)		準絶滅危惧(NT)
アブラナ科	コイヌガラシ		○						準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧種C	準絶滅危惧(NT)
マンサク科	トサミズキ		○		○				準絶滅危惧(NT)		
ベンケイソウ科	アズマツメクサ		○						準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧種A	絶滅危惧I類(CR+EN)
バラ科	シモツケ							○		準絶滅危惧種	情報不足(DD)
	ユキヤナギ	○	○	○		○	○	○		準絶滅危惧種	絶滅危惧II類(VU)
スミレ科	イソスミレ				●				絶滅危惧II類(VU)		
アカネ科	ハクチョウゲ							○	絶滅危惧IB類(EN)		
クマツヅラ科	コムラサキ				○		○			絶滅危惧種C	絶滅危惧II類(VU)
ゴマノハグサ科	オオアブノメ		○						絶滅危惧II類(VU)	絶滅危惧種A	絶滅危惧I類(CR+EN)
	カワヂシャ	○	○				○		準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	準絶滅危惧(NT)
ヒルムシロ科	ツツイトモ				○				絶滅危惧II類(VU)		
ユリ科	ニラ		○	○	○	○	○			絶滅危惧種A	
	ノシラン							○		絶滅危惧種C	情報不足(DD)
カヤツリグサ科	ヤガミスグ				○					絶滅危惧種C	準絶滅危惧(NT)
	ミコシガヤ		○							絶滅危惧種C	準絶滅危惧(NT)
	マツカサススキ		○							絶滅危惧種C	絶滅危惧I類(VU)
ラン科	シラン			○					準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧種C	絶滅危惧I類(CR+EN)
	クロヤツシロラン							○			準絶滅危惧(NT)
14科	21種	2種	11種	3種	7種	2種	4種	6種	11種	15種	15種

注) ○：専門家調査で確認された種、●：市民調査、公開調査で確認された種

(3) 前回調査との比較

前回調査では確認種が141科909種、希少種が30種であり、今回は確認種、希少種ともに減少していた。これは今回調査の対象地域が主に河川地域であり、前回の調査地域にあった丘陵地等やため池、水田等が少なかったためと考えられる。

前回調査と同じ調査地域である天野川と船橋川では、天野川では確認種は減少していたが、船橋川では増加していた。また、希少種では天野川で前回確認されていたカワヂシャは今回も確認され、新たにユキヤナギが確認された。船橋川は、前回希少種は確認されていなかったが、今回はユキヤナギ、コムラサキ、カワヂシャ、ニラの4種が確認された。

3.2.2 孤立林

枚方市の孤立林を人為的な影響との関わりでその成因(残存要因)により整理した。調査対象とした枚方市内の孤立林の成因による類型区分を表3-6に示す。

今回の調査対象の各孤立林の位置を図3-4に示し、類型区分や概況を表3-7に整理した。

表 3-6 孤立林の類型化の概要

類型	成因(残存要因)	類型の内容
A	宗教的・文化的に残存され担保	社寺林として、宗教的・文化的に保護され古くから残存する森林。担保性は高い。
B	公園や学校の緑地として残存・造成され担保	公園や学校の緑地として残存された森林もしくは公園新設に伴い造成された森林。担保性は高い。
C	協定緑地等制度的に残存され担保	緑地保全条例や緑化基準のために工場の敷地内緑地等として残存もしくは造成された森林。担保性は高い。
D	地形的な側面から開発が抑制され残存	段丘崖の斜面等開発に不向きな地形的要因から開発が抑制され残存された森林。担保性はない。
E	地理的な側面から開発が抑制され残存	市街地中心部から離れた東部地域という地理的な条件の悪さから開発が遅れたことにより残存した孤立状の森林。まとまった東部地域周辺の森林域との接点となる孤立林でもあり、その存在は重要であるが、近年では種々の開発が進み、狭小化、断片化が進んでいる。担保性はない。

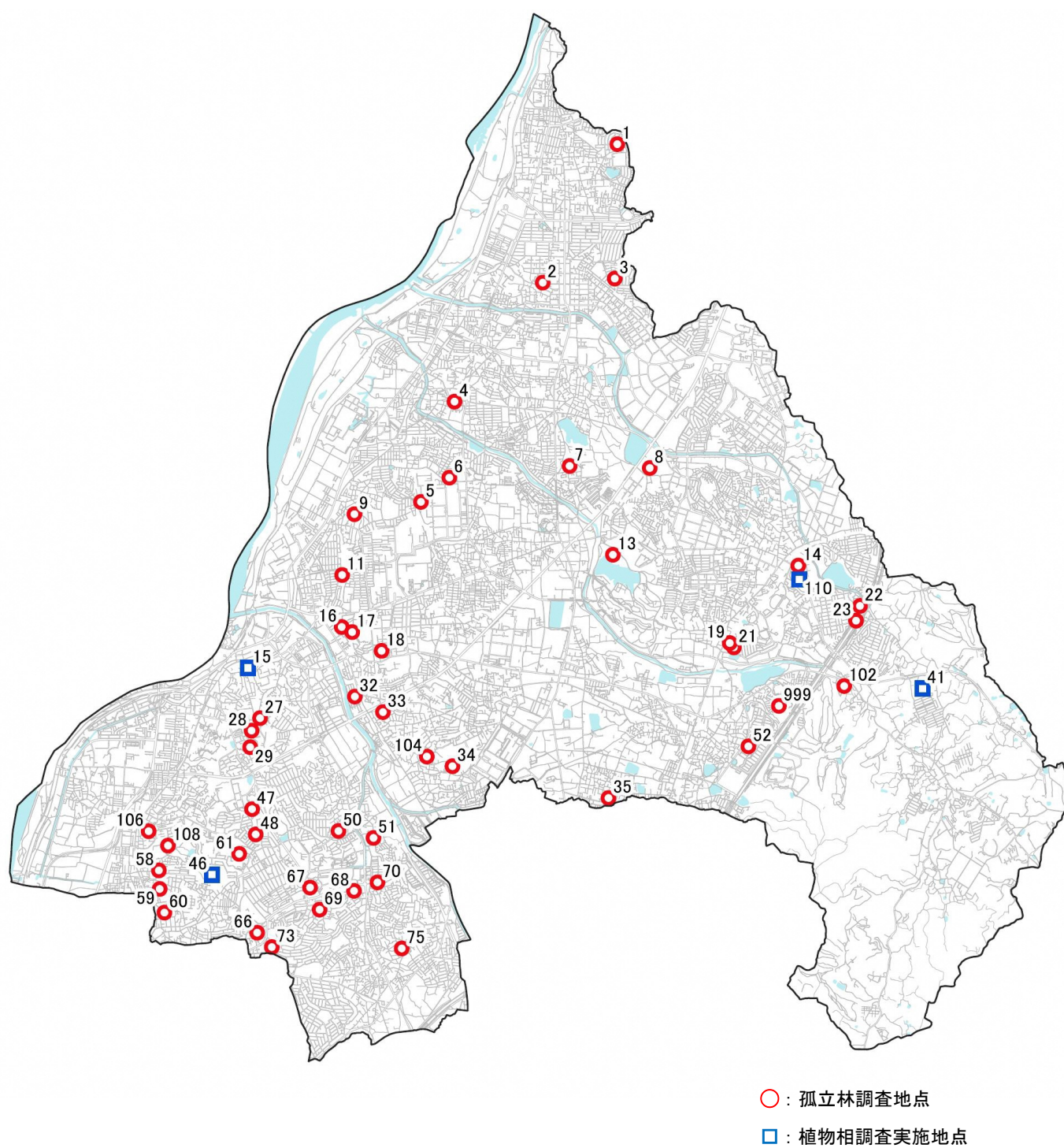


図 3-4 孤立林調査地点位置図

表 3-7 孤立林調査結果一覧

類型 区分	整理 番号	名称	2017年調査				樹林の構造												樹林の健全性チェック					備考	コメント	
			2017年 調査日	写真ファイルNo.		詳細 調査	高木層			亜高木層			低木層			草本層			クズの 繁茂	タケの 侵入	シュロ の生 育	外来 植物 の繁 茂	人為 庄に よる荒 廃			
							高さ (m)	植被率 (%)	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	優占種								
A	1	交野天神社	8月18日	9415	9417		17	90	アラカシ	8	30	アラカシ	5	40	カナメモチ	0.5	1	アラカシ	—	—	—	○	—		樹林面積は中くらい。構成種はやや少ない。	
A	2	二ノ宮神社	8月18日	9419	9422		28	80	クスノキ	10	40	アラカシ	5	5	サカキ	0.5	5	アラカシ	—	—	○	—	—	シュロの侵入が多い	樹林面積は小さい。構成種は少ない。	
D	3	楠葉面取町	8月18日	9423	9425		12	90	モウソウチク	—	—	—	3	5	サカキ	0.5	5	エノキ	—	—	—	—	—	林内は荒れている	樹林面積は小さい。竹林内は荒れている。	
B	4	大阪歯科大学	8月18日	9533	9535		15	70	クスノキ	10	30	アラカシ	3	50	イロハモミジ	1	15	アレチヌスビトハギ	—	—	—	○	○	踏み込みによる荒廃が多い	樹林面積は中くらい。構成種は少ない。	
C	5	小松製作所	8月18日	9468	9470		—	—	クスノキ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	今後要調査	樹林面積は中くらい。立ち入りが禁止されている。	
A	6	牧野車塚古墳	8月18日	9464	9467		20	80	コナラ	10	40	コナラ	4	20	シャシャンボ	0.5	40	ネザサ	—	—	—	—	—		樹林面積はやや広い。構成種は中くらい。	
A	7	日置天神社	8月18日	9428	9430		18	80	コナラ	10	40	アラカシ	4	10	トウネズミモチ	0.5	10	ネザサ	—	○	○	○	—	部分的に伐採されている	樹林面積は中くらい。立ち入りが禁止されている。	
D	8	招提大谷	8月18日	9433	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	消失(2017年調査)	伐採され、樹林は消失している。	
A	9	御殿山神社	8月31日	9750	9751		15	70	アベマキ	8	40	アラカシ	4	30	アラカシ	0.5	10	ネザサ	○	○	—	—	○	—	—	樹林面積は中くらい。構成種はやや少ない。
D	11	御殿山段丘崖	8月31日	9741	9742		17	80	コナラ	—	—	不明	—	—	不明	—	—	ネザサ	○	○	○	—	—		樹林面積は中くらい。立ち入りが禁止されている。	
B	13	山田池公園春日山	8月18日	9434	9435		23	90	コナラ	10	40	ヤマザクラ	4	20	ネズミモチ	0.8	30	ベニシダ	—	—	○	—	—		樹林面積は広い。立ち入りが禁止されている。	
A	14	正俊寺	8月18日	9440	9441		12	95	スギ	—	—	—	1.5	40	アジサイ	0.5	1	ネザサ	—	—	○	—	○	林床にアジサイが植栽される	樹林面積は中くらい。構成種は中くらい。	
A	15	意賀美神社	8月31日	9753	9761	●(半日)	20	80	クスノキ	12	40	アラカシ	5	30	サカキ	1	5	ネザサ	○	○	○	—	—	シュロの侵入が多い	樹林面積は広い。構成種はやや多い。	
A	16	真光寺・浄蓮寺墓地	8月31日	9734	9736		15	40	エノキ	10	60	アラカシ	4	30	ヤブニツケイ	1	30	ネザサ	—	○	○	—	—	シュロの侵入が多い	樹林面積は小さい。構成種は少ない。	
B	17	啓光学園	8月31日	9737	9739		18	90	クスギ	10	20	ムクノキ	6	40	アラカシ	1	30	ネザサ	○	○	—	—	—		樹林面積は小さい。立ち入りが禁止されている。	
A	18	百済寺跡	8月19日	9482	9483		15	80	アベマキ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	樹林面積は小さい。人為的な影響が強い。	
A	19	菅原神社(藤阪天神町)	8月18日	9454	9455		15	90	クスノキ	9	30	アラカシ	4	40	カナメモチ	0.8	20	ネザサ	—	—	○	—	—	シュロの侵入が多い	樹林面積は小さい。構成種は中くらい。	
E	21	藤阪天神	8月18日	9462	9463		12	80	アカマツ	—	—	—	3	20	アカメガシワ	1	30	ネザサ	○	—	—	—	—		樹林面積は小さい。構成種は中くらい。	
B	22	長尾台亀谷公園	8月19日	9508	9511		20	60	コナラ	12	20	コナラ	4	5	ヒサカキ	1	60	ネザサ	○	—	—	—	—		樹林面積は小さい。林床にネザサが多い。	
E	23	長尾台3	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	消失(2012年調査)		
B	27	坊主池公園	8月31日	9766	9771		18	80	コナラ	8	30	アラカシ	5	40	アラカシ	1	5	ネザサ	—	○	—	—	—		樹林面積は小さい。構成種は少ない。	
D	28	東京海上火災寮	8月31日	9762	9763		16	90	コナラ	10	20	アラカシ	6	40	イヌビワ	1	40	ネザサ	○	—	—	○	—		樹林面積は小さい。立ち入りが禁止されている。	
D	29	東京海上火災寮	—	—	—		10	20	クスギ	—	—	—	2.5	30	アラカシ	1	60	クズ	○	—	—	—	—	消失(2012年調査)		
A	32	禁野車塚古墳	8月19日	9471	9474		18	70	アベマキ	10	80	アラカシ	4	5	ヒサカキ	1.5	60	ネザサ	—	—	○	—	○	シュロの侵入が多い	樹林面積は小さい。林床にネザサが多い。	
B	33	星丘	8月19日	9475	9480		20	85	アベマキ	12	30	アラカシ	5	50	ヒサカキ	1	40	ネザサ	—	—	○	—	—		樹林面積は広い。構成種はやや多い。	
A	34	村野神社	8月19日	9486	9488		16	80	アラカシ	8	50	アラカシ	5	50	アラカシ	1	5	ネザサ	—	—	○	—	—	シュロの侵入が多い	樹林面積は小さい。構成種は少ない。	
A	35	春日神社	8月19日	9502	9505		20	80	クスノキ	8	20	ヒノキ	5	20	サカキ	1	10	ナガバシラノヒゲ	—	—	○	—	—	シュロの侵入が多い	樹林面積は小さい。構成種は少ない。	
E	41	氷室台	8月19日	9527	9529	●(1日)	14	70	コナラ	10	30	アラカシ	4	40	ヒサカキ	1	20	ネザサ	—	○	—	—	—		樹林面積は広い。構成種は多い。	
D	46	香里園桜木町	8月31日	9806	9808	●(1日)	18	80	コナラ	8	20	アラカシ	4	30	シュロ	1	30	ネザサ	○	○	○	—	—		樹林面積は広い。構成種はやや多い。	
C	47	松下電器	8月31日	9774	9776		16	80	コナラ	—	—	—	—	—	—	1	50	ネザサ	—	○	—	—	—	今後要調査	樹林面積は小さい。立ち入りが禁止されている。	
C	48	松下電器	8月31日	9778	9780		16	80	コナラ	—	—	—	—	—	—	1	50	ネザサ	—	○	—	—	—	今後要調査	樹林面積は中くらい。立ち入りが禁止されている。	
A	50	山田神社	9月11日	40	46		18	80	アラカシ	10	40	アラカシ	4	30	サカキ	0.8	20	ベニシダ	○	—	○	—	—		樹林面積はやや広い。構成種はやや少ない。	
B	51	藤田町・桑ヶ谷公園	9月11日	47	49		14	70	コナラ	8	40	ソヨゴ	4	30	シャシャンボ	1	10	ネザサ	—	○	—	—	○	踏み込みによる荒廃が多い	樹林面積はやや広い。構成種はやや少ない。	
E	52	津田元町	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	消失(2012年調査)		
A	58	蹊陀天満宮	8月31日	9812	9813		18	80	アベマキ	10	40	アラカシ	4	30	カナメモチ	1	5	ネザサ	—	—	○	—	—	シュロの侵入が多い	樹林面積はやや小さい。構成種は少ない。	
D	59	南中振	8月31日	9817	9819		17	80	アベマキ	10	40	アラカシ	4	30	ヤブツバキ	1	10	ネザサ	—	○	—	—	—	部分的に伐採されている	樹林面積は小さい。構成種は少ない。	
D	60	香里園山手町	9月11日	9998	9999		15	95	モウソウチク	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		樹林面積は小さい。構成種は少ない。	
B	61	香里丘高校	8月31日	9781	9784		18	80	コナラ	10	30	アラカシ	4	40	ヒサカキ	1	50	ネザサ	○	—	○	—	—		樹林面積はやや小さい。構成種はやや少ない。	
B	66	香里ヶ丘南公園	9月11日	6	7		18	70	コナラ	8	40	コナラ	4	30	シャシャンボ	1	20	ネザサ	—	—	—	—	○	踏み込みによる荒廃が多い	樹林面積は広い。構成種は中くらい。	
B	67	香里ヶ丘中央公園	9月11日	16	20		18	40	アカマツ	8	30	アラカシ	4	50	カナメモチ	0.5	30	ネザサ	—	—	—	—	○	踏み込みによる荒廃が多い	樹林面積はやや広い。構成種はやや少ない。	
B	68	香里ヶ丘東公園	9月11日	35	36		18	80	コナラ	10	40	アラカシ	4	30	カナメモチ	0.5	5	ネザサ	—	—	—	—	—		樹林面積は中くらい。構成種はやや少ない。	
B	69	観音山公園	9月11日	23	25		14	70	アカマツ	8	30	コナラ	4	40	カナメモチ	0.5	60	ネザサ	—	—	○	—	○	踏み込みによる荒廃が多い	樹林面積は中くらい。構成種はやや少ない。	
B	70	桑ヶ谷公園南	9月11日	26	27		15	70	アラカシ	8	30	アラカシ	3	5	シャシャンボ	0.3	20	ネザサ	—	—	—	—	○		樹林面積は小さい。構成種は少ない。	
B	73	香里小学校	9月11日	10	12		13	80	コナラ	7	50	アラカシ	3	30	シャシャンボ	0.5	5	ネザサ	—	—	—	—	○	踏み込みによる荒廃が多い	樹林面積は中くらい。構成種はやや少ない。	
A	75	春日神社(茄子作)	8月19日	9499	9501		15	80	アラカシ	10	20	アラカシ	4	20	サカキ	0.3	1	ベニシダ	—	○	—	—	—		樹林面積はやや広い。構成種に中くらい。	
E	102	津田東	8月19日	9516	9520		—	—	—	12	60	モウソウチク	2	40	トウネズミモチ	1	70	ヘクソカズラ	○	○	—	○	—	竹林になっている	樹林面積は小さい。構成種に中くらい。	
D	104	印田町	8月19日	9492	9493		14	90	モウソウチク	7	30	アラカシ	3	20	アラカシ	0.5	5	ネザサ	—	—	—	—	—		樹林面積は小さい。構成種に中くらい。	
D	106	楽寿荘	8月31日	9789	9790		18	80	クスノキ	10	40	エノキ	4	40	ヤブツバキ	0.8	5	ベニシダ	—	—	○	—	—		樹林面積は小さい。構成種は少ない。	
B	108	大阪市立高校	8月31日	9797	9799		14	30	アラカシ	8	70	マダケ	2.5	30	アラカシ	1	10	ネザサ</								

前回調査から変化があった箇所は赤色で示した

(1) 孤立林植物相調査

代表的な孤立林として、比較的面積の大きい意賀美神社(No. 15)、氷室台(No. 41)、香里園桜木町(No. 46)、菅原神社(No. 110)を選定し、植物相調査を実施した。

確認種は、意賀美神社が71科198種、氷室台が87科257種、香里園桜木町が81科234種、菅原神社60科170種であった。希少な植物としては、氷室台及び香里園桜木町のモウソウチク林内でクロヤツシロランを確認した。特に香里園桜木町のモウソウチク林では合計100個体近く確認された。



クロヤツシロラン (香里園桜木町)

(2) 孤立林の状況

枚方市内の孤立林は、社寺、公園、学校等の公共性の高い緑地や、その他の民有地に残されている。

社寺林には、アラカシ、クスノキ等の常緑林に、アベマキ等の落葉樹が混生するケースが多く、まれにスギ林（正俊寺）、シイ林（菅原神社）等もみられた。社寺林として立派な樹林が多く残っている状況であった。

公園の緑地には、コナラ、アカマツの優占する明るい林が多い。このような明るい林では、林床にネザサが繁茂しやすいが、下草刈り等の管理を継続することにより、公園機能を高めている樹林が多くみられる。

その他の民有地に残る孤立林は、氷室台(No. 41)および香里園桜木町(No. 46)を除き、小規模な林が多い。コナラ、アベマキ等の落葉樹林か、モウソウチク林であることが多く、斜面等の利用しにくい場所にみられる。このような孤立林は管理が行き届かず林内が荒れているものが多い。また、招提大谷(No. 8)では孤立林が宅地造成により消失していることを確認した。

3.2.3 哺乳類

(1) 確認種

調査の結果、全体で10種、市民調査で7種の哺乳類を確認した。調査地域別では、山田池公園が7種と最も多く、次いで天野川、穂谷川であった。

確認種は市街地周辺を含め、丘陵から山地に広く生息する種であった。イノシシやニホンジカといった行動範囲の広い種は確認されなかったが、キツネといった生態系の上位種に位置づけられるような肉食性の中型哺乳類やコウベモグラやカヤネズミといった河原や農耕地を生息地とする種が確認されており、里山の生態系を特徴付ける種が確認された。

表 3-8 哺乳類確認種一覧

目名	科名	種名	調査地域						
			天野川	山田池公園	穂谷川1	穂谷川2	船橋川1	船橋川2	その他
モグラ目	モグラ科	コウベモグラ			○				
		モグラ属の一種※1	○●	○					
ネズミ目	ネズミ科	カヤネズミ	●	○●					
	ヌートリア科	ヌートリア		○●		○	○	○	
ネコ目	アライグマ科	アライグマ	●	○●	○				
	ジャコウネコ科	ハクビシン							◎
	イヌ科	タヌキ		○●					
		キツネ				○			
		ノイヌ			○				
	イタチ科	テン		●					
		イタチ属の一種	●	○●		○●			
	—	ネコ目の一種※2	●						
3目	7科	10種	4種	7種	3種	3種	1種	1種	1種

※1 コウベモグラとの重複が考えられる項目は、種数に計上していない。

※2 他のネコ目の種との重複が考えられる項目は、種数には計上していない。

注) ○：専門家調査で確認された種、●：市民調査、公開調査で確認された種

◎：市民からの情報で確認された種

(2) 希少な哺乳類

今回の調査で希少な哺乳類として
表3-9に示す2種を確認した。

表 3-9 希少な哺乳類一覧

目名	科名	種名	調査地域						レッドデータブック文献	
			天野川	山田池公園	穂谷川1	穂谷川2	船橋川1	船橋川2	環境省RL	大阪府RL
ネズミ目	ネズミ科	カヤネズミ	●	○●						準絶滅危惧 (NT)
ネコ目	イヌ科	キツネ				○				絶滅危惧I類 (CR+EN)
2目	2科	2種	1種	1種	0種	1種	0種	0種	0種	2種

注) ○：専門家調査で確認された種、●：市民調査、公開調査で確認された種



カヤネズミ（古巣）

(3) 前回調査との比較

前回調査では確認種が6目11科15種、希少種が3種であり、今回は確認種、希少種ともに減少していた。これは今回調査の対象地域が主に河川地域であり、前回の調査地域にあった丘陵地がなく、ニホンザルやニホンリス、イノシシといった種が確認されなかったためと考えられる。

特定外来種であるヌートリアは、前回調査では天野川、淀川で確認されていたが、今回は天野川で確認されなかったものの、山田池公園、穂谷川、船橋川で確認されており、枚方市内で生息域を拡大している可能性がある。

3.2.4 鳥類

(1) 確認種

調査の結果、全体で75種、市民調査で58種、市民からの情報で1種の鳥類を確認した。調査地域別では、天野川が53種と最も多く、次いで山田池公園、穂谷川2、穂谷川1であった。山田池公園は、府下でも屈指の広さの山田池を中心に、樹林や里山的環境が広がっている。天野川、穂谷川 については、どちらも都市河川を主体としながら、草地や水辺等様々な環境要素が含まれている地域である。

確認種は、水辺を代表する種（カワセミ、セキレイ類、クイナ類等）が生息していたほか、山田池公園では、カワウの営巣、カモ類の越冬が確認された。

表3-10 鳥類確認種一覧

目名	科名	種名	調査地域					
			天野川	山田池公園	穂谷川1	穂谷川2	船橋川1	船橋川2
カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ		○●	○	○		
		カンムリカイツブリ	●					
ペリカン目	ウ科	カワウ	○●	○●	○	○	○	○
コウノトリ目	サギ科	ゴイサギ			○			
		ダイサギ	○	○●	○	○	○	○
		コサギ	○●	○●	○	○	○	○
		アオサギ	○●	○●	○	○	○	○
		オシドリ		○				
カモ目	カモ科	マガモ	○●	○●	○	○		○
		アイガモ		●				
		カルガモ	○●	○●	○	○	○	○
		コガモ	○●	○●	○		○	○
		オカヨシガモ	●					
		ヒドリガモ	○●					
		ハシビロガモ	●	○				
		ホシハジロ	●	○		○		
		キンクロハジロ	●			○		
		ミコアイサ		○				
		カワアイサ	●					
タカ目	タカ科	ミサゴ	●					
		トビ	●	○				
		オオタカ	●	●				
		ハイタカ	○					
		ノスリ	○●			○		
		ハヤブサ	●					
キジ目	キジ科	キジ	●					
ツル目	クイナ科	クイナ	●					
		ヒクイナ		●				
		シロハラクイナ	◎					
		バン				○		
		オオバン	●			○	○	
		コチドリ	○		○			
チドリ目	チドリ科	イカルチドリ		●				
		ケリ					○	
		シギ科	○●		○	○	○	○
		カモメ科	○					
ハト目	ハト科	セグロカモメ	●					
		ドバト	○●	●	○	○	○	○
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	○●	○	○	○	○	○
キツツキ目	キツツキ科	コゲラ		○●		○	○	
スズメ目	ツバメ科	ツバメ	○	○●	○	○	○	○
		イワツバメ	○●			○	○	
	セキレイ科	キセキレイ	○●	○●	○	○		
		ハクセキレイ	○●	○●	○	○	○	○
		セグロセキレイ	○●	○●	○	○	○	○
		ヒヨドリ	○●	○●	○	○	○	○
	モズ科	モズ	○●	○●	○	○	○	○
	ツグミ科	ジョウビタキ	○●	●	○	○		
		イソヒヨドリ	○					○
		トラツグミ		○				
		アカハラ		○				
		シロハラ		●				
		ツグミ	●	○●	○		○	
		ウグイス	●	○●	○	○	○	
		オオヨシキリ		●		○		
		センダイムシクイ		○				
		ムシクイ属の一種※1	○					
	ヒタキ科	キビタキ		○		○		
		コサメビタキ		○				
	エナガ科	エナガ		○●		○		
	シジュウカラ科	ヤマガラ		○●				
		シジュウカラ	○	○●	○	○		
	メジロ科	メジロ		○●	○	○	○	
	ホオジロ科	ホオジロ	●				○	
		カシラダカ	●					
		アオジ	●	○●	○	○	○	
	アトリ科	アトリ		○				
		カワラヒワ	○●	●	○	○	○	○
		ベニマシコ			○			
		イカル		○●				
	ハタオリドリ科	スズメ	○●	○●	○	○	○	○
	ムクドリ科	ムクドリ	○●	●	○	○	○	○
	カラス科	ハシボソガラス	○●	○●	○	○	○	○
		ハシブトガラス	○●	○●	○	○	○	
12目	29科	75種	53種	50種	32種	37種	29種	21種

※1 センダイムシクイとの重複が考えられる項目は、種数に計上していない。

注) ○：専門家調査で確認された種、●：市民調査、公開調査で確認された種
◎：市民からの情報で確認された種

(2) 希少な鳥類

今回の調査で希少な鳥類として

表3-11に示す17種を確認した。

表 3-11 希少な鳥類一覧

目名	科名	種名	調査地域						レッドデータブック文献	
			天野川	山田池公園	穂谷川1	穂谷川2	船橋川1	船橋川2	環境省RL	大阪府RL
カモ目	カモ科	オンドリ		○					情報不足 (DD)	
タカ目	タカ科	ミサゴ	●						準絶滅危惧 (NT)	
		オオタカ	●	●					準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)
		ハイタカ	○						準絶滅危惧 (NT)	
		ノスリ	○●			○				準絶滅危惧 (NT)
	ハヤブサ科	ハヤブサ	●						絶滅危惧II類 (VU)	
ツル目	クイナ科	クイナ	●							準絶滅危惧 (NT)
		ヒクイナ		●					準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧II類 (VU)
チドリ目	チドリ科	コチドリ	○		○					準絶滅危惧 (NT)
		イカルチドリ		●						絶滅危惧II類 (VU)
		ケリ					○		情報不足 (DD)	準絶滅危惧 (NT)
	シギ科	イソシギ	○●		○	○	○	○		準絶滅危惧 (NT)
スズメ目	ツグミ科	トラツグミ		○						準絶滅危惧 (NT)
	ウグイス科	オオヨシキリ		●		○				準絶滅危惧 (NT)
		センダイムシクイ		○						準絶滅危惧 (NT)
	ヒタキ科	コサメビタキ		○						絶滅危惧II類 (VU)
	ホオジロ科	カシラダカ	●							準絶滅危惧 (NT)
5目	10科	17種	9種	8種	2種	3種	2種	1種	7種	13種

注) ○：専門家調査で確認された種、●：市民調査、公開調査で確認された種



ミサゴ



クイナ

(3) 前回調査との比較

前回調査では確認種が14目32科97種、希少種が29種であり、今回は確認種、希少種ともに減少していた。これは今回調査の対象地域が主に河川地域であり、前回の調査地域にあった丘陵地がなく、樹林性の種が少なかったためと考えられる。

希少種では、前回確認されていなかったコサメビタキが確認された。

3.2.5 昆虫類

(1) 確認種

調査の結果、全体で 408 種、市民調査で 81 種の昆虫類を確認した。確認種はコウチュウ目、ハチ目、チョウ目、バッタ目といった草地や樹林地を生息地とする種が多く確認された。また、水辺環境の代表的な種であるトンボ目やアメンボやコオイムシといった水生昆虫類のカメムシ目も多く確認された。

調査地域別では、穂谷川 2 が 189 種と最も多く、次いで船橋川 1 の 160 種、山田池公園の 159 種であり、水辺から草地や砂地、樹林等多彩な環境が存在する河川で多く確認された。

ホタル調査は、山田池公園及び穂谷川においてゲンジボタルを確認した。

表 3-12 昆虫類確認種数の内訳

目名	全体	調査地域						
		天野川	山田池公園	穂谷川1	穂谷川2	船橋川1	船橋川2	その他
カゲロウ目	1	1	0	1	1	0	0	0
トンボ目	25	12	17	12	10	7	8	0
ゴキブリ目	2	1	1	0	1	2	0	0
カマキリ目	4	0	3	0	2	2	2	0
ハサミムシ目	3	1	2	1	2	1	1	0
バッタ目	38	20	19	13	22	22	21	0
ナナフシ目	1	0	1	0	0	0	0	0
カメムシ目	99	46	36	27	49	38	33	0
アミメカゲロウ目	4	1	0	1	1	2	0	0
チョウ目	48	13	25	10	25	19	19	2
ハエ目	17	9	1	5	9	6	7	0
コウチュウ目	105	28	32	17	36	34	26	0
ハチ目	61	24	22	24	31	27	27	0
13目	408	156	159	111	189	160	144	2

表 3-13 昆虫類確認種数の内訳（市民調査・公開調査）

目名	全体	調査地域		
		天野川	山田池公園	穂谷川2
トンボ目	11	6	5	2
カマキリ目	2	0	1	1
バッタ目	11	0	1	11
ナナフシ目	1	0	1	0
カメムシ目	13	1	1	11
チョウ目	16	0	2	14
ハエ目	2	0	0	2
コウチュウ目	14	0	7	8
ハチ目	11	0	1	10
13目	81	7	19	59

(2) 希少な昆虫類

今回の調査で希少な昆虫類として表3-14 に示す 12 種を確認した。確認種には、河原環境を代表するキアシハナダカバチモドキや淀川水系に多いクロスジチャイロテントウ等が確認された。また、前回調査で確認されなかったナニワトンボが山田池公園で確認された。

表 3-14 希少な昆虫類一覧

目名	科名	種名	調査地域						レッドデータブック文献	
			天野川	山田池公園	穂谷川1	穂谷川2	船橋川1	船橋川2	環境省RL	大阪府RL
トンボ目	サナエトンボ科	フタスジサナエ			○				準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)
	トンボ科	ナツアカネ				○●	○	○		準絶滅危惧 (NT)
		アキアカネ	●		○	○				準絶滅危惧 (NT)
		ナニワトンボ		○					絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅危惧 II 類 (VU)
カメムシ目	アメンボ科	ヤスマツアメンボ	○		○			○		準絶滅危惧 (NT)
	コオイムシ科	コオイムシ				○		○	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)
コウチュウ目	ガムシ科	コガムシ	○			○			情報不足 (DD)	準絶滅危惧 (NT)
	テントウムシ科	クロスジチャイロテントウ	○							準絶滅危惧 (NT)
ハチ目	スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ		○		○●	○	○	情報不足 (DD)	
		モンズズメバチ		○					情報不足 (DD)	
	ドロバチモドキ科	キアシハナダカバチモドキ					○		絶滅危惧 II 類 (VU)	
	ハキリバチ科	キバラハキリバチ					○		準絶滅危惧 (NT)	
4目	9科	12種	4種	3種	3種	5種	4種	4種	8種	8種

注) ○：専門家調査で確認された種、●：市民調査、公開調査で確認された種



ナニワトンボ



キアシハナダカバチモドキ

(3) 前回調査との比較

前回調査では確認種が14目144科485種、希少種が9種であり、確認種が減少していた。これは今回調査の対象地域が主に河川地域であり、前回の調査地域にあった丘陵地がなく、山地や林縁部に生息する樹林性の種が少なかったためと考えられる。

希少種では、前回確認と比較してトンボ目や水生昆虫といった水辺環境の種が増加していた。

3.2.6 両生類・爬虫類

(1) 確認種

調査の結果、全体で3種の両生類と9種の爬虫類を確認し、市民調査で6種の爬虫類を確認した。調査地域別にみると、山田池公園、天野川が8種とこの2地域で今回調査のほぼすべての確認種が確認されている。これらの地域は、水田やため池、小河川等水辺と周辺の森林が連続して存在し、両生類の生息に適した環境が多数存在することや両生類が豊富であることで、それを餌とするヘビ類も多く生息していることにつながっていると考えられる。

表 3-15 両生類・爬虫類確認種一覧

綱名	目名	科名	種名	調査地域						
				天野川	山田池公園	穂谷川1	穂谷川2	船橋川1	船橋川2	その他
両生綱	無尾目	アカガエル科	トノサマガエル	○		○	○			
			ウシガエル	○	○	○		○	○	
		ヌマガエル科	ヌマガエル	○	○	○	○	○	○	
爬虫綱	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	○	●	○				
			クサガメ	○	○●	○		○	○	
		ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	○●	○●	○		○	○	
		スッポン科	ニホンスッポン		●					◎
		—	カメ目の一種※1		○					
		有鱗目	ヤモリ科		○●					
	有鱗目	トカゲ科	ニホントカゲ		○		○	○		
		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	○	○			○	○	
		ナミヘビ科	シマヘビ	○	○	○		○	○	
			アオダイショウ		●					
2綱	3目	9科	12種	8種	11種	7種	3種	7種	6種	1種

※1 他のカメ目の種との重複が考えられる項目は、種数に計上していない。

注) ○：専門家調査で確認された種、●：市民調査、公開調査で確認された種

◎：市民からの情報で確認された種

(2) 希少な両生類・爬虫類

今回の調査で希少な両生類・爬虫類として表3-16に示す3種を確認した。

表 3-16 希少な両生類・爬虫類一覧

綱名	目名	科名	種名	調査地域							重要種	
				天野川	山田池公園	穂谷川1	穂谷川2	船橋川1	船橋川2	その他	環境省RL	大阪府RL
両生綱	無尾目	アカガエル科	トノサマガエル	○		○	○				準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)
爬虫綱	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	○	●	○					準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)
		スッポン科	ニホンスッポン		●					◎	情報不足 (DD)	
2綱	2目	3科	3種	2種	2種	2種	1種	0種	0種	1種	3種	2種

注) ○：専門家調査で確認された種、●：市民調査、公開調査で確認された種

◎：市民からの情報で確認された種



トノサマガエル



ニホンイシガメ

(3) 前回調査との比較

前回調査では確認種が4目13科21種、希少種が7種であり、今回は確認種、希少種ともに減少していた。これは今回調査の対象地域が主に河川地域であり、前回の調査地域にあった丘陵地や水田が少なく、それらを生息環境とするカエル類やヘビ類がが少なかったためと考えられる。

希少種では、前回確認確認されなかったニホンスッポンが確認された。

3.2.7 魚類

(1) 確認種

調査の結果、全体で26種、市民調査で21種の魚類を確認した。調査地域別にみると、天野川が21種と多く、次いで穂谷川が12種、山田池公園が11種であった。天野川は淀川の合流部から近く、淀川から魚の行き来があることや、流れによってできる砂のたい積場所や植生帯等環境が多様であることから多くの種が確認できていると考えられる。

表 3-17 魚類確認種一覧

目名	科名	種名	調査地域					
			天野川	山田池公園	穂谷川 1	穂谷川 2	船橋川 1	船橋川 2
コイ目	コイ科	コイ	○●	●	○		○	○
		ゲンゴロウブナ		●				
		ギンブナ	●					
		フナ属の一種※ ¹	○	○●	○		○	○
		カネヒラ	○					
		タイリクバラタナゴ	●					
		オイカワ	○●		○		○	
		カワムツ	○					
		ヌマムツ	○●					
		モツゴ	○●	○●	○	○	○	○
		タモロコ	○●	○●	○	○	○	○
		カマツカ	○●					
		コウライニゴイ	○●					
	ドジョウ科	ドジョウ	○●		○	○	○	○
ナマズ目	ギギ科	ギギ	●	●				
	ナマズ科	ナマズ	○					
カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	○●		○			
ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	○●	○	○	○	○	○
		ヒメダカ					○	
スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル	○●	●				
		オオクチバス	○●					
	ドンコ科	ドンコ	○●	○	○	○	○	○
	ハゼ科	ウキゴリ		●	○			
		カワヨシノボリ	○●		○		○	○
		シマヒレヨシノボリ						○
		ハゼ科の一種※ ²						○
	タイワンドジョウ科	カムルチー		●				
タウナギ目	タウナギ科	タウナギ	●	●	○			○
6目	11科	26種	21種	11種	12種	5種	10種	10種

※1 ゲンゴロウブナ、ギンブナとの重複が考えられる項目は、種数に計上していない。

※2 他のハゼ科の種との重複が考えられる項目は、種数には計上していない。

注) ○：専門家調査で確認された種、●：市民調査、公開調査で確認された種

(2) 希少な魚類

今回の調査で希少な魚類として表3-18に示す9種を確認した。

表 3-18 希少な魚類一覧

目名	科名	種名	調査地域						レッドデータブック文献	
			天野川	山田池公園	穂谷川1	穂谷川2	船橋川1	船橋川2	環境省RL	大阪府RL
コイ目	コイ科	ゲンゴロウブナ		●					絶滅危惧IA類(EN)	
		ヌマムツ	○●							絶滅危惧II類(VU)
		タモロコ	○●	○●	○	○	○	○		準絶滅危惧(NT)
	ドジョウ科	ドジョウ	○●		○	○	○	○	情報不足(DD)	絶滅危惧II類(VU)
ナマズ目	ギギ科	ギギ	●	●						準絶滅危惧(NT)
	ナマズ科	ナマズ	○							準絶滅危惧(NT)
ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	○●	○	○	○	○	○	絶滅危惧II類(VU)	絶滅危惧II類(VU)
スズキ目	ハゼ科	ウキゴリ		●	○					準絶滅危惧(NT)
		シマヒレヨシノボリ						○	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧(NT)
4目	6科	9種	6種	5種	4種	3種	3種	4種	4種	8種

注) ○：専門家調査で確認された種、●：市民調査、公開調査で確認された種



ドジョウ



ギギ

(3) 前回調査との比較

前回調査では確認種が7目12科33種、希少種が10種であり、今回は確認種、希少種ともに減少していたが、カネヒラやオイカワ、ヌマムツ、モツゴ等淀川水系で一般的に見られる種は今回も確認された。

希少種では、前回確認確認されなかったシマヒレヨシノボリが確認された。

3.2.8 水生生物

(1) 確認種

現地調査の結果、全体で13種、市民調査で7種の水生生物を確認した。調査地域別にみると、天野川が11種と多く、次いで穂谷川2が7種であった。天野川は淀川の合流部から近いことや流れによってできる砂のたい積場所や植生帯等環境が多様であることから多くの種が確認できていると考えられる。

表 3-19 水生生物確認種一覧

目名	科名	種名	調査地域					
			天野川	山田池 公園	穂谷川1	穂谷川2	船橋川1	船橋川2
新生腹足目	リンゴガイ科	スクミリンゴガイ	○					○
	タニシ科	ヒメタニシ	○			○		○
	カワニナ科	カワニナ		○		○	○	
汎有肺目	モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ			○			○
	サカマキガイ科	サカマキガイ	○			○		○
マルスダレガイ目	シジミ科	シジミ属の一種	○●	○	○	○		
エビ目	ヌマエビ科	ミナミヌマエビ	○●	○	○		○	
		ヌマエビ	○●	○	○	○	○	
	テナガエビ科	テナガエビ	○●	●				
		スジエビ	○●	○●	○	○	○	○
	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	○●	○	○	○	○	○
	サワガニ科	サワガニ	○					
	モクズガニ科	モクズガニ	●					
4目	11科	13種	11種	7種	6種	7種	5種	6種

注) ○：専門家調査で確認された種、●：市民調査、公開調査で確認された種

(2) 希少な水生生物

今回の調査で希少な水生生物は確認されなかった。

(3) 前回調査との比較

前回調査では確認種が4目8科10種であり、やや増加していた。確認種のうち、前回と比較して貝類が種数、確認箇所ともに増加していた。特に要注外来生物であるスクミリンゴガイは、前回調査では河川において確認されていなかったが、今回は天野川および船橋川で確認されており、枚方市内で生息域を拡大している可能性が考えられる。

3.2.9 市民からの情報提供

市民からの情報提供により確認された生物は、ハクビシン、シロハラクイナ、アサギマダラ、ニホンスッポンの4種であった。

表 3-20 情報提供種

ハクビシン	シロハラクイナ
 平成31年1月18日に穂谷新池で確認（提供写真）	 平成29年11月25日に天野川河口の淀川に一番近い河川敷橋で確認（提供写真）
アサギマダラ	ニホンスッポン
 平成30年10月17日に杉青谷1丁目付近で確認（提供写真）	 平成29年11月26日に口頭で情報提供（場所不明・写真は市外で撮影したもの）

4 枚方市の自然環境の現状と評価

4.1 調査結果の分析・評価

今回の調査は、主に河川等水辺環境とその周辺の緑地が対象地域であることから、枚方市における水辺環境とその周辺緑地を中心とした自然環境の現状について分析を行うこととした。

4.1.1 枚方市の自然環境

枚方市は人口約40万人で大阪府内でも4番目の人口を擁する都市でありながら、市西部の淀川河岸と、市東部の山地周辺にまとまった緑地が分布しており、様々な生物の生息環境になっていると考えられる。特に今回の調査地域である山田池公園や河川は、多様な自然環境を有しており、市内でも重要な地域であると考えられる。

今回の調査地域の状況を以下に示す。

(1) 山田池公園

山田池公園は、枚方市の平野部市街地にある山田池を中心とした広大な緑地公園である。敷地内にはクヌギやコナラといった森林性の植物からヨシ等の水辺の植物まで幅広く生育しており、樹林地と水域が一体となった生物多様性の観点からも重要な役割を担っている場所であると考えられる。

出現種も多様な種が確認されており、一般的な種から希少な種まで観察できる貴重な場所であると考えられる。特に山田池は、ヨシ原及びその周辺が多数の希少な湿生植物の生育環境となっているほか、カモ類が越冬地として利用している等市内でも有数の豊かな自然が存在している地域と考えられる。

園内は、遊歩道が充実しているため、様々な生物と親しめる空間が多数あることから、市民の環境教育の場や枚方市の豊かな自然をアピールする場として利用可能であると考えられる。



(2) 天野川

天野川は、淀川に近いこと、自然状態に近い河床が保たれていること等により多彩な魚類が生息している。また、鳥類もミサゴやハヤブサ等の猛禽類やクイナやユリカモメ等の水辺の鳥類、ホオジロやカワラヒワ等の草地や林縁部の鳥類といった種が確認されており、市内でも有数の豊かな自然環境が存在する河川であると考えられる。

植物は、低水敷の草地および流水辺と堤防上部の土手に生育している。カワヂシャといった希少な種が生育しているが、確認種に占める帰化植物の割合も高い状況であった。

天野川は、堤防の両岸に低水護岸が設置され、一部、階段状の親水護岸が設けられている。また、低水敷の一部には、遊歩道が設置されており、様々な生物と親しめる空間が多数あることから、市民の環境教育の場や枚方市の豊かな自然をアピールする場として利用可能であると考えられる。



(3) 穂谷川

穂谷川は、一部区間は両岸に低水護岸が設置されているが、その他の区間は両岸ともに土の河岸で、コナラ林、竹林、堤防草地へと続いている。そのため多様な植物相を形成しており、調査地域の中では最も植物の確認数が多い河川であった。また、植物相が多彩なため、それに付随する昆虫類も多く、カブトムシやナガゴマフカミキリといった樹林性の昆虫類からセスジツユムシやタイコウチといった草地やの水生の昆虫類まで多様な昆虫類が生息していた。

穂谷川は、堤右岸樹林内に遊歩道が、左岸に小公園が設置され、様々な生物と親しめる空間が多数あることから、市民の環境教育の場や枚方市の豊かな自然をアピールする場として利用可能であると考えられる。



(4) 船橋川

船橋川は、周辺に住宅地が多く、植物の生育は、主に堤防上部の土手と河床の土だまりであった。そのため、哺乳類や鳥類の生息は他の河川よりやや少ない状況であった。しかし魚類や底生動物といった水生生物は比較的多く、ハゼ科やコイ科の魚類が多く確認された。

植物の出現種数は比較的多い状況であったが、天野川と同様確認種に占める帰化植物の割合も高い状況であった。

船橋川は、住宅地内を通る河川でありながら、様々な生物と親しめる空間であると考えられることから、市民の環境教育の場として利用可能であると考えられる。



4.1.2 枚方市の生物

今回調査対象地域となった天野川、穂谷川、船橋川は、河川内に植生が発達しており、都市部にある貴重な緑地空間であるとともに、多様な生物の生息環境となっていることが確認された反面、外来種の侵入も容易な状況であると考えられる。現地調査においても調査地域には希少な動植物が多く確認されているが、前回調査から分布範囲を拡大している外来種や今回の調査で新たに出現した外来種も確認されており、今後外来種に対する対策が必要であると考えられる。

山田池公園は、市民の憩いの場でもあるが、希少な湿生植物の生育の場でもあることが確認された。山田池公園は、樹林と水域が一体となった、市街地の中にある最も大きな緑地公園だが、生物多様性の観点からも重要な役割を担っていることが改めて示されたと考えられる。



ナガエツルノゲイトウ（特定外来生物）



タイワンタケクマバチ（新たに確認された外来種）

4.1.3 枚方市の孤立林

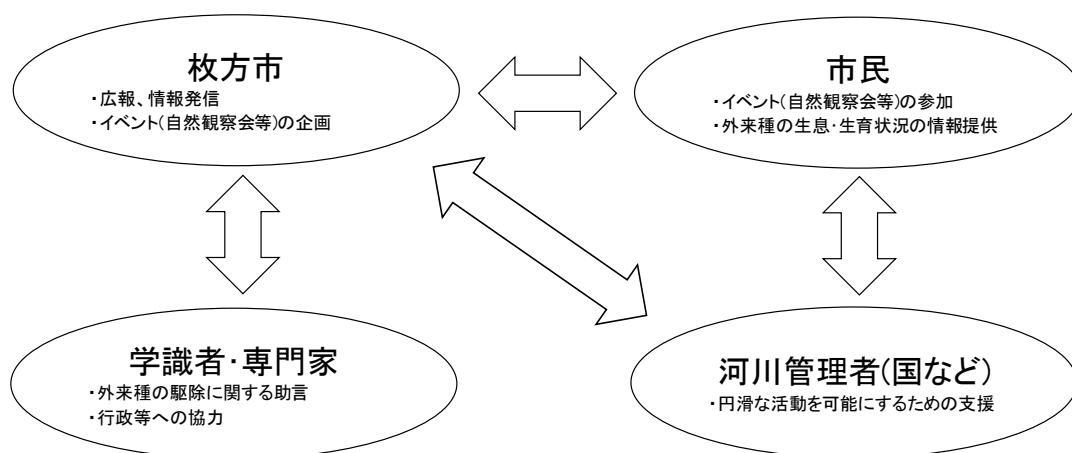
市内に残る孤立林は、全体に構成樹種が限定されており、多様性は低いと考えられる。これはそれぞれがすでに樹林としては小規模で、また頻繁に管理作業が行われており、植物種の多様性維持に果たす役割が低いと考えられる。しかし、果実や樹林空間は、鳥類や昆虫類にとって有用なものであり、社寺、公園、学校等の公共性の高い樹林は、よく管理された立派なものが多く、市民の憩いの場となっていることから今後も貴重な緑地空間であると考えられる。

今回の調査では、前回調査に続き孤立林の消失を確認した。今後管理が行き届かないような民有地に残る小規模の孤立林は、消失の可能性は高いと考えられる。

4.2 保全施策について

河川環境は、都市部にある貴重な自然環境であるが、外来種の侵入により在来種が追いやられてしまう可能性があり、植物ではすでに駆除は難しい状況であると考えられる外来種も存在する。これら外来種の対策は、行政が中心となるが、実質的には行政だけでは十分に対応することは困難であるため、市民の協力も必要であると考えられる。行政は外来種に対する普及啓発のため、ホームページや広報等で情報発信を行うことともに、市民を交えたイベント（自然観察等）を企画して外来種対策に繋がる活動を推進していくことが望ましいと考えられる。また、これらの活動には河川管理者に協力を仰ぎ、円滑な活動を可能にするための支援を求めるほか、外来種の駆除活動等に詳しい学識者・専門家に助言を求め、技術的なサポートを得て効果的に進めていくことが望ましい。

孤立林については、市内ではニホンジカによる食害を受けないことから、ニホンジカの食害が進んでいる周辺の山地樹林から、食害によって減りつつある樹木や草本を移植し、在来種の避難場所として活用することも利用方法のひとつとして考えられる。



河川環境の外来種対策における協働体制のイメージ図